

東水試出版物通刊 No. 216

調査研究要報 No. 90

小笠原諸島水産開発基礎調査報告

Ⅱ

昭和46年3月

東京都水産試験場

目 次

1. 小笠原諸島の魚類相と漁獲量の傾向	1
2. 底魚・磯魚一本釣漁業調査	3 9
3. 底魚延縄漁業の一事例	5 1
4. 小笠原諸島の漁業の現況と問題点	5 7
5. 父島二見港内定置観測結果	6 2

目 录

1 1	1
2 2	2
3 3	3
4 4	4
5 5	5

小笠原諸島の魚類相と漁獲量の傾向

倉田 洋二、三村 哲夫、草 処 孝一

(技術管理部)

(小笠原支庁産業課水産係)

1. はしがき
2. 調査方法
3. 調査結果
 - 1) 海域の特性
 - 2) 魚類相の概要
 - 3) 慣用語(方言)と和名
 - 4) 魚種別・漁業別経年漁獲量
 - 5) 魚類目録
4. 引用文献

1. はしがき

戦前の小笠原諸島の産業は農業と水産業の三大産業によって形成されその生産額は年によって多少の優劣はあったが、全般的に見て相伯仲していた。返還後ではいち早く進出した漁業者によって、底魚一本釣、棒受網漁業等が営なまれ、これらの漁業が小笠原諸島における唯一の基幹産業となっている。このように水産業に対する依存度は極めて高いが現存する魚類質源を枯渇することなく恒久的に維持し有効適切に活用することが小笠原の水産業を発展させるものとする。当場ではこれらの問題を解決するために返還後3ヶ年間にわたって現地調査した結果、現存する魚類相の大要と魚獲量の動行をつかみ得たと思われるのでここに取りまとめて検当を加えて見た。

本報告について採集標本の一部を同定していただいた東海区水産研究所 阿部宗明博士、東京大学水産資料館 井田 斎博士、現地調査に協力していただいた小笠原支庁産業課水産係長 三河平治、漁業取締船興洋船長 浅沼隆他乗組員一同、モーセス・セボレーの各位に御礼申上げる。

2 調査方法

魚類相については主として潜水観察、採集を行った他、当场指導船「あずま」及び漁業取締船「興洋」、漁船水揚物の標本その他によった。又筆者等の潜水観察、採集標本の不足を補う為に鳥羽水族館片山照男、上野水族館杉浦宏、東京大学水産資料館井田斉、各位の潜水観察、採集リストも併せて用いたがうたがわしい魚類については除いた。

小笠原諸島はいうまでもなく亜熱帯であるため、その魚類相は亜熱帯魚類が多く潜水観察だけでは種名の同定上多くの未確定要素もあるのでこれらは今後の標本採集によってその正確を期したい。なお魚種別漁獲量については漁協の資料を用いて検討した。調査期間、調査海域、調査員等は表1のとおりである。

表1 調査日程

年 度	期 間	海 域	調 査 員
昭和44年度	S43年6月23—7月12日	父、母、聳島列島	塩屋照雄、倉田洋二、三村哲夫
昭和45年度	S44年6月23—7月31日	聳島、父島、母島、火山列島	倉田洋二、高橋萩之介、広瀬泉
昭和46年度	S46年5月	聳島、父島、母島列島	倉田洋二、三木誠

3. 調査結果

1) 海域の特性

東京の南方約1,000 Kmの大太平洋中に散在する小笠原諸島の島々は南北に孤立し北端の聳島列島一の岩から南端の沖の鳥島迄、北緯27°20'25"の420 Kmにわたっている。孤島とはいえこれをとりまく海域は黒潮及び北赤道流にかこまれた小笠原環流によって熱帯、亜熱帯、温帯と連なり、又小笠原諸島の東に存在する日本海溝から連なる小笠原海溝(水深7000 m)は小笠原諸島の海況に複雑な影響を与えていると推定される。

夏季の表面塩分(15σ)によるとこの海域は高鹹水帯に入り日本近海や、マリアナ海域に比べて35~36‰と稍高い。水温ではその中心にある父島二見港内で20.5~26.8°C、年平均23.6°Cと同緯度にある沖縄本島より7月に1.3°C高く2月に2.1°C高い。

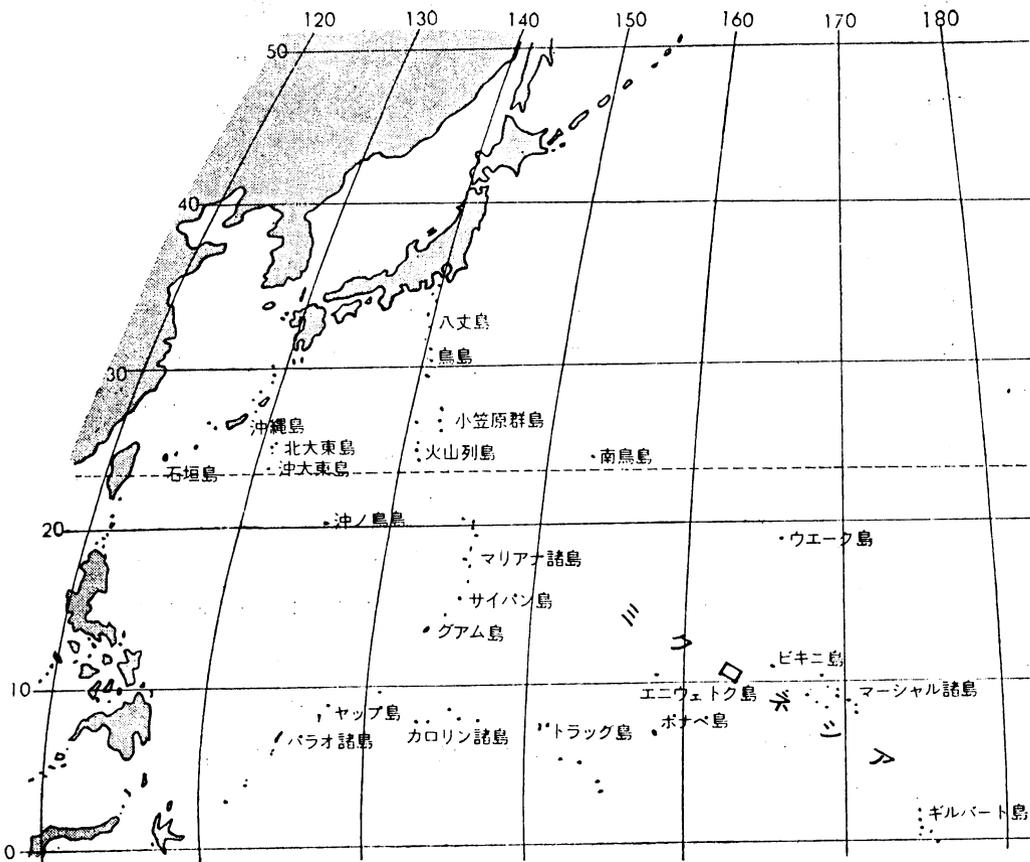


図1. 小笠原諸島をとりまく環境

2) 魚類相の概要

小笠原諸島は直接外洋に接した急崖急深が多く、従って沿岸部は岩礁地帯が多く砂礫は少い、そして場所によっては石珊瑚が着生し、波静かな入江では石珊瑚は良く成長して裾礁的な礁を形成している。従って魚類相も、沿岸の磯魚類、珊瑚魚類、表中層性の浮魚類、深海性の底魚類に大別できる。これらを総合すると魚類目録にかかげたように94科381種となる。最も種類の多い科は、チョウチンウオ科の40種、次にスズキ科の37種、(うちハタ類が35種)、ベラ科の26種、スズメダイ科の22種、ニザダイ科の17種、アジ科の15種、フェダイ科の13種、モンガラヤワハギ科の11種、サバ科、

クモハゼ科、フグ科の10種でその他の科では7~1種である。

父島二見港や母島沖港のような静かな入江にはミズン(ヒライワシ)の大群、メアジの大群が見られる。外洋に接した岩礁地帯や石珊瑚の着生した場所ではテンヂクイサキ(ササヨ)の大群が最も多く見られ、次にクロハギ類 *Acanthurus leucopareiu* で伊豆諸島の海に見られるニザタイの如く群を作る。石珊瑚の着生の多い場所や礁を形成する浅所では、多くのチョウチョウウオ類、ベラ類、スズメダイ類、ニザダイ類が多く、稍深所ではヨスヂフェダイ、ノゴギリダイ、ヒメヂ、ヒブダイ、その他のブダイ、アイゴ類が群をなして移動している。岩礁間や、石珊瑚を棲場とする群をなすものにロクセンスズメ、シロクスズメ、その他のスズメダイ類、イボハヤやサイサンゴの樹間を棲場とするものでは、ヒトスヂリュウキウスズメ、フタスヂリュウキウスズメ、美しいセナスチゴンベ(仮称)等である。単独又は数尾で比較的良く眼につく魚類では、海蝕洞中に、ネムリブカ、ヒラガシラ、イソマブロ、二見港内でアカシユモグザメ、砂地には巨大なウシェイ、アカエイやヒラメ科の唯一種モンダルマカレイがしばしば見られる。ヘラヤガラ、イトウダイ類、アカハタ、バラハタ、ホウセキハタ、キヂハタその他ハタ類、コショウダイ類、タテジマキンチャク、キイロハギ、イシガキフグ等は岩礁間や珊瑚礁間に最も良く見られる。

沿岸の中層を群泳するのは、クマササハナムロ(シマムロ)、ウメイロモドキ、クサヤモロ、海面近く沖合の表層を泳ぐものは、トビウオ類、カツオ、稀にはイトマキエイ、中層ではオキザワラ、マグロ類である。

表2 科別・種類数

種類数	科	目
40	チョウチョウウオ科	
37	スズキ科(ハタ類35)	
26	ベラ科	
22	スズメダイ科	
17	ニザダイ科	
15	アジ科	
13	フェダイ科	
11	モンガラカワハギ科	

種類数	科名
10	サバ科、フグ科、クモハゼ科
7	ウツボ科、ブダイ科
6	イソギンボ科
5	アカエイ科、イットウダイ科、ヒメジ科、テンヂクダイ科、タカサゴ科、イサキ科、
4	マカジキ科、フェブキダイ科、ハコフダ科、フサカサゴ科
3	トチザメ科、メチロザメ科、ニシン科、トビウオ科、メチナ科、カワアナゴ科、ゴンベ科、タカノハダイ科、アイゴ科、カワハギ科、イザリウオ科
2	ネコザメ科、トビエイ科、カタクテイワシ科、ウナギ科、ウミヘビ科、サヨリ科、ヤガラ科、ヨウジウオ科、ボラ科、キントキダイ科、ユゴイ科、イスズミ科、タイ科、メイチダイ科、シマイサキ科、ハリセンボン科、オニオコゼ科
1	トラザメ科、シュモクザメ科、ネズミザメ科、オナガザメ科、ノコギリザメ科、イトマキエイ科、ギンザメ科、ヒメ科、エソ科、ゴンズイ科、アナゴ科、タツミンノ科、ダツ科、サンマ科、ヘラヤガラ科、キンメダイ科、ギンメダイ科、トウゴロウイワシ科、カマス科、ツバメコノシロ科、シイラ科、シマガツオ科、イボダイ科、エボシダイ科、ハタンボ科、マツダイ科、カワビツシャ科、タナバタウオ科、クロサギ科、カクレウオ科、イタチウオ科、カワスズメ科、ツバメウオ科、カゴカキダイ科、ツノダン科、ウチワフグ科、イトマキフグ科、マンボウ科、セミホウボウ科、ヒラメ科、ダンゴオコゼ科、アカグツ科

主な魚類について述べると次のとおりである。

サメ類、8科、13種の内、アカシュモクザメとネムリブカが最も眼につき、ヒラガシラも多い。

アカシュモクザメ *Sphyrna rewini*

父島二見港内に夏季来遊する。1～数尾で表層又は中層を群泳し湾奥の二見岩附近迄接岸する。倉田は二見岩沖で潜水中水深15mで6尾の群を発見した。おとなしく人をおそうことはないようである。魚体の大きさは全長3m前後であり、回遊と前後して全長60cmの幼魚がひんばんに二見港内で釣獲されることから、アカシュモクの接岸は産卵回遊と思われる。

ネムリブカ *Triaenodon obesus*

戦前はアイザメと呼ばれていた。干潮時タイドプールになる岩礁間や、海蝕洞、珊瑚礁間に多くは数尾で静止している。父島列島の南島にある袋港はサメ池と呼ばれ、特に多く群集する、又母島列島の沖港、平島、ムコ島列島のムコ島にも多い。

エイ類3科、8種のうち、ウシエイが最も多くマダラトビエイは珍しい。

ウシエイ *Dasyatis ushieii* JORDAN et HVBBS

岩礁間や砂地に多く昼間は静止していることが多い、巨大な個体が多くその游泳は見事である。

マダラトビエイ *Aetobatus narinari* (EUPHRASEN)

美しいエイで父島二見港内で1尾発見された。

オオウナギ *Anguilla marmorata* QUOY et GAIMARD

遠山(1938)によればマウナギとオオウナギが生息するというが、オオウナギが父島の八瀬川、兄島、母島沖港等の小河川で生息するのが見られた。恐らく他の小河川にも分布するものであろう。

淡水魚類

オオウナギの他にハゼ科の魚が兄島、父島の八瀬川、扇村の小河川、母島北村の衣川に生息する。父島八瀬川のハゼ科の魚にはシロダボ、クロダボと呼んでいるが前種は不明で後種はドンコ、兄島産ではボウズハゼである。父島の八瀬川にはカダヤシが戦前(1925)鯉餌料として三重県から支庁の手により移植され多数繁殖している他、カワスズメ(ティラピア)が戦后米軍の手で移植している。

ハナヒゲウツボ *Rhinomuraena amponensis* BARBOUR

本種は母島列島、平島近海の水深12mで発見し採集した。游泳には著しい体の蛇行運動が見られたほか、採集後の水槽内では渦巻状に輪を作り、あたかも巻いたリボンのようでその美しさは眼をみはるものがある。日本近海の記録は庵美大島(1960)で、その後同島から再度も発見され、(1970)その興味ある生態が写真に記録されている。小笠原諸島の採集記録は本邦における2度目の報告である。

イスズミ科 *Kyphosidae*

テンヂクイサキとゴクラクメヂナの2種が生息している。両種ともに現地ではササヨと呼び、ゴクラクメヂナは冬季ハバノリが生育するとこれを餌に釣獲するという、一方テンヂクイサキは欧米系日本人はBethと呼ぶ、テンヂクイサキには体色の個体変化が多

く、群れの中には鮮黄色の個体、白色の個体、まだらの個体等が見られる、鮮黄色のテンヂクイサキについては古くから記録がある。阿部喜任(1862)によると「扁くササ魚と八丈人のいふものあり鯛に似て色サバの如く、一種の臭気あり、皮を去れば臭気やや軽し、鯛に似て黄色なるものあり、予黄金鯛と名づく。在島の英人に問えばエルロウ(黄)フィス(魚)と答ふれども全く英語とも思はれず」テンヂクイサキとイスズミは筆者が伊豆諸島で観察した結果によれば、伊豆諸島～小笠原諸島にかけて兩種ともに分布しており、兩種ともにササヨと呼ばれている。量的(資源的)にはテンヂクイサキが多く見られ、イスズミが少ない、特にイスズミは伊豆諸島から小笠原諸島で見ると、北に多く南に少ない傾向が見られる。これに比べてテンヂクイサキは南に多く、鳥島ではほとんどテンヂクイサキであり、小笠原諸島でも同じである。テンヂクイサキの産卵期は鳥島では春、イスズミは夏季(伊豆諸島)である(倉田検)、伊豆諸島ではテンヂクイサキの稚魚が6月～8月に出現する(倉田検)、日向灘では6～11月(松田1966)、伊豆半島諸島では7～10月(井田1967)である。

チョウチョウオ科 Chaetodontidae

珊瑚礁魚類の代表魚であるチョウチョウオ科の魚類は40種に達した。今後の調査によって更に増加するであろうが、小笠原近海をとりまく周辺の紀州、沖縄、ヒリッピン、マリアナ、マーシャル海域と比べて見ると図2のとおり各地域と共通種は紀州、沖縄、マリアナ、マーシャル、ヒリッピンの順となり総ての海域との共通種は17種である、小笠原近海をとりまく海流を考えると興味深い。

トビウオ科 Exocoetidae

多数の種類が分布回遊していると推定されるが、今迄に4種類が確認された、最も重要な種類はオオメナツトビ *Oypsurus antonichichi* で、次にマトウトビウオ *C. spilopterus* である。硫黄列島に春季産卵回遊する他、父島列島から夏季は三宅島島近海を来遊するが、産業的には硫黄列島以外では漁獲されない、なお南鳥島島でも大群が見られるというのでこれらのトビウオ類は亜熱帯性のトビウオ類といえよう。

ダンゴオコゼ Caracanthus maculatus (GRAY)

1955年高知県沖の島より採集され蒲原稔治博士によりダンゴオコゼと新和名をつけた稀種で全長3cmの小魚である。造礁サンゴの樹間に生息し日本以外ではインド洋、ハワイ、フィジー、サモア、パウモツ、ニウギニア、オーストラリア東北部にか

けての熱帯や亜熱帯に知られる。小笠原諸父島は新産地で日本における二度目の記録である。

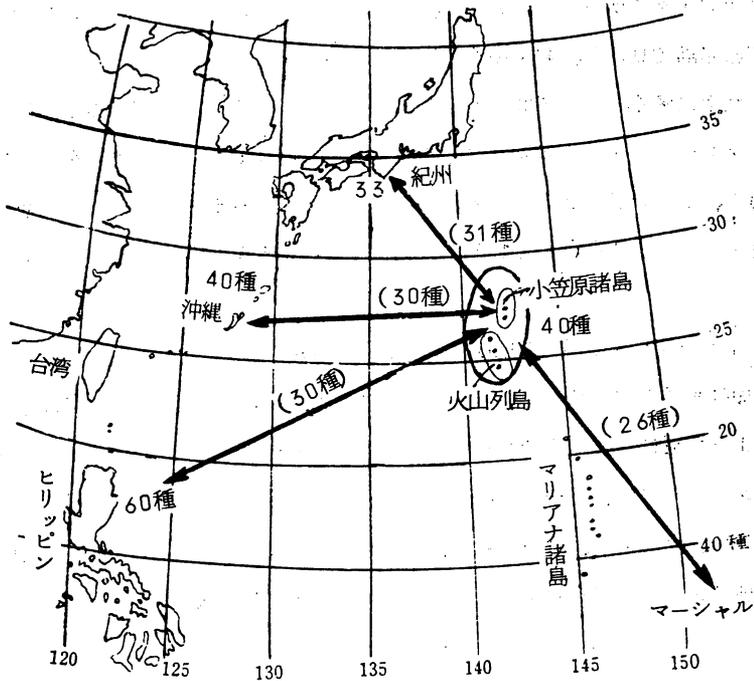


図2. 小笠原とその近辺の海域で見られるチョウチョウオ科の種類数()内は共通種

表3. 昭和43年漁獲量

漁業	魚種	月			計
		10	11	12	
底 魚 一 本 釣	ハマダイ		4,998.7	2,697.0	7,695.7
	オオヒメ	439.0	1,383.0	789.0	2,611.0
	ヒメダイ	198.5	1,070.8	561.0	1,830.3
	ハナフエダイ	21.0	222.0	116.0	359.0
	八丈アカムツ		13.0		13.0
	アオダイ		7.0	6.5	13.5
	ウメイロ	857.0	740.0	750.0	2,347.0
	マツダイ	101.0	208.0	600.0	909.0
	メダイ	41.0			
	キダイ		23父0		271.0
	ホウセキハダ	233.0	75.0	409.0	484.0
	ホウキハタ		1,119.8	334.0	1,686.8
	アカハタ	7.5	94.0	158.0	252.0
	カンバチ		826.0	1,410.0	2,243.5
	シマアジ	2,227.5	32.0	37.0	69.0
	その他	4,125.5	645.5	139.0	3,012.0
小計		11,664.8	8,006.5	23,796.8	
曳 繩	キハダ	76.5	227.0	955.0	1,258.5
	ビンナガ		270.0	2.0	272.0
	カマスサワラ	8,646.8	5,492.0	5,025.0	19,163.8
	その他				
小計	8,723.3	5,989.0	5,982.0	20,694.3	
延 繩	キハダ				
	メバチ				
	ビンナガ				
その他					
小計					
棒 受 網	クサヤモロ	8,584.4	6,005.0	3,872.0	18,461.4
	ウメイロモドキ	328.8	1,017.7	449.0	1,795.5
	小計	8,913.2	7,022.7	4,321.0	20,256.9
刺 網	トビウオ				
合 計	21,762.0	24,676.5	18,309.5	64,748.0	

表 4 昭和 44 年漁獲量

漁業	魚種	月					
		1	2	3	4	5	6
底魚一本釣	ハマダイ	2,687.0	284.0		55.0		282.0
	オオヒメ	552.0	18.0		182.0		200.0
	ヒメダイ	114.0	13.0				17.0
	ハナフエ	51.0	4.0				1.0
	八丈アカムツ	25.0					
	アオダイ	2.0					
	ウメイロ	92.0	2.0			680.0	81.0
	マツダイ	227.0					30.0
	メダイ						
	キダイ	141.0	10.0				160.0
	ホウセキハタ	273.0	12.0		6.0		13.0
	ホウキハタ	276.0	33.0			65.0	343.0
	アカハタ	78.0	6.0		83.0	10.0	94.0
	カンパチ	336.0	39.0	6.0	21.0		69.0
シマアジ		53.0	5.0				
その他	82.0	36.0	283.0	13.0	106.0	118.0	
小計	4,936.0	510.0	294.0	36.0	86.0	1,408.0	
曳縄	キハダ	314.0	25.0			31.0	70.0
	ビンナガ					31.0	
	カマスサワラ	535.0	23.0			67.0	1,080.0
	その他						83.5
小計	849.0	48.0			98.0	1,233.5	
延縄	キハダ	47.0				8.0	
	メバチ						
	ビンナガ						
小計	47.0				8.0		
棒受網	クサヤモロ	1,165.0	54.0				
	ウメイロモドキ						
小計	1,165.0	54.0					
刺網	トビウオ			17,100.0	10,004.3	2,752.91	
合計	6,997.0	612.0	17,394.0	10,364.3	28,496.1	2,641.5	

7	8	9	10	11	12	計
4,979.5	13,445.2	8,381.1	9,444.5	2,397.0	6,704.5	48,659.8
571.0	546.5	269.4	186.5	509.0	630.0	3,664.4
273.0	526.5	498.3	401.0	276.5	908.0	3,027.3
107.0	778.9	360.0	521.0	210.0	458.0	2,490.9
46.0	440.0	245.2	399.0	115.0	335.5	1,605.7
44.0			4.0	136.0	345.7	531.7
297.0	172.0	106.5	285.5	99.0		1,815.0
397.5	738.0	506.4	513.0	102.0	602.0	3,115.9
	11.0	11.5				2.5
740.5	1,098.1	408.9	382.6	171.0	609.9	3,672.0
190.0	92.0	34.0	57.0	151.0	208.0	1,036.0
1,129.0	1,143.0	368.0	250.3	207.5	687.0	4,501.8
114.0	45.0					430.0
372.0	122.0	106.5	311.0	215.5	877.0	2,475.0
96.0	31.5	19.2	44.0	46.0		294.7
2,897.0	200.5	1,239.9	168.0	243.0	450.0	4,720.4
12,253.5	19,390.2	11,438.9	12,917.4	4,878.5	12,815.6	82,063.1
439.0	1,021.5	526.0	1,741.5	2,039.0	2,239.0	8,446.0
35.0		25.5		5.0		65.5
2,529.0	10,405.5	12,940.7	9,107.5	6,169.3	6,656.5	49,513.5
138.0	47.0	9.0	76.0	48.3	24.0	425.8
3,141.0	11,474.0	13,501.2	10,925.0	8,261.6	8,919.5	58,450.8
92.0	105.0					252.0
54.0						54.0
146.0	105.0					306.0
1,124.0		1,759.8	4,641.0	2,128.5	2,979.0	13,851.3
		548.6	100.0	6.0	25.0	679.6
1,124.0		2,308.4	4,741.0	2,134.5	3,004.0	14,530.9
						54,633.4
1,666.45	30,969.2	27,248.5	28,583.4	15,274.6	24,739.1	209,984.2

表 5. 昭和 4 5 年 漁 獲 量

漁業	魚種	月					
		45年1月	2	3	4	5	6
底 魚 一 本 釣	ハマダイ	569.5	2,075.0	1,925.8	2,791.2	7,540.0	1,828.0
	オオヒメ	29.0	119.0	337.0	714.0	391.0	41.5
	ヒメダイ	210.0	653.5	1,113.5	504.0	433.0	130.5
	ハナフエダイ	557.0	190.5	1,645	381.5	823.5	211.5
	八丈アカムツ	65.5	97.5	148.0	164.0	311.0	62.5
	アオダイ		28.5	77.0	46.0	0	
	ウメイロ	276.5	87.5	122.5	128.5	13.0	29.0
	マツダイ	19.0	198.0	75.5	295.5	530.5	229.5
	メダイ						
	キダイ	127.5	369.0	192.5	493.0	656.5	458.0
	ホウセキハタ	180.0	347.5	171.0	676.0	154.0	30.0
	ホウキハタ	231.5	864.5	620.0	1,327.0	1,215.5	1,333.0
	アカハタ		47.0		50.0		
	カンパチ	677.5	752.2	289.5	734.0	366.5	104.0
	シマアジ	63.0	27.0	47.5	14.5	7.0	3.0
その他	340.5	179.5	144.0	1,068.0	323.5	480.0	
小計	3,346.5	6,036.2	5,428.3	9,387.2	12,765.0	4,940.5	
曳 縄	キハダ	272.0	66.0	54.0		17.5	177.5
	ビンナガ	603.0	25.0	150.0	245.5	16.5	
	カマスサワラ	1,126.0	41,641.5	94.0	836.5	132.0	131.5
	その他	150.0	49.0	48.0			26.0
小計	2,151.0	4,781.5	346.0	1,082.0	166.0	335.0	
延 縄	キハダ	755.5	128.5				
	メバチ	950.5					
	ビンナガ	4,675.0					
	その他	292.0	314.5				
小計	6,673.0	443.0					
棒 受 網	グサヤモロ					86.40	
	ウメイロモドキ						
	小計					86.40	
刺 網	トビウオ				3,567.3	17,681.3	
	合計	12,170.5	11,260.7	5,774.3	14,036.5	31,476.3	52,755

7	8	9	10	11	12	計
2,041.0	4,029.0	7,013.3	4,768.2	2,629.5	4,152.1	41,362.6
19.5	154.0	225.0	245.5	1,030.5	225.0	3,531.0
221.0	785.0	3,987.5	4,148.0	2,161.5	471.5	14,819.0
158.0	195.5	432.5	389.0	184.5	240.5	3,928.5
53.0	63.0	201.5	246.5	39.5	152.0	1,604.0
	205.0	17.5		413.0	246.5	1,033.5
131.0	303.0		90.0	147.5	52.5	1,381.0
138.5	114.5	311.0	150.0	474.0	441.5	2,977.5
			15.0		377.5	392.5
400.5	486.0	952.5	1,034.5	761.0	808.0	6,739.0
18.5	75.5	153.0	52.5	303.0	263.0	2,424.0
665.0	876.0	1,381.0	1,138.5	1,479.7	901.5	12,033.2
11.0						108.0
355.0	64.0	225.5	298.0	583.4	524.3	4,973.9
7.5	29.0	23.0	54.5	131.0	9.5	416.5
177.0	376.5	160.0	76.0	522.5	532.0	4,379.5
4,396.5	7,756.0	15,083.3	12,706.2	10,860.6	3,397.4	102,103.7
111.0	184.9	739.0	649.3	111.5	45.0	242.7
					244.5	1040.0
442.5	1,703.0	1,385.7.5	4,746.5	1,343.5	244.5	29,299.0
270.0	21.5	27.7	12.5		289.5	604.7
823.5	1,909.4	14,624.2	5,408.3	1,455.2	289.5	33,371.4
						884.0
						950.5
						4,675.0
						606.5
						7,116.0
		1,177.5	7,795.0	22,278.5	13,806.5	45,921.5
		1,177.5	7,795.0	22,278.5	13,806.5	45,921.5
						21,248.6
5,220.0	9,665.4	30,885.0	25,909.5	34,594.1	23,493.4	209,761.2

3) 慣用語(方言)と和名

阿部(1862)によって記録された魚名はフカ、サメ、クロダイ、ボラ、タイ、イワシ、カツオ、ブリ、ミチ、沖アジ、ササ魚、トンビエイ、ムナギ、イエロウ・フェイスの14種である。吉原(明・34)は47種、遠山(昭・12年)は53種を記録している。通過後に筆者等は57種を記録した併せて整理した結果、慣用語は89種で和名と対比して明らかなもの75種、標本が入手できず和名と対比できなかったもの43種となる。

慣用語の多くは小笠原の移民の歴史と関連し、伊豆諸島、特に八丈島の慣用語が多く、又紀州等の慣用語も見られる。これらの解説については別に述べたい。

表6. 慣用語と和名

慣用語	和名	慣用語	和名	慣用語	和名
アイザメ	ネムリブカ	オウトウ	ニシキベラ	ゴーキハギ	
アイッバラ	スマ	オキアジ		ゴクラクイワシ	ススキハダカ
アオゼ	アオダイ	オキカマス		ゴチ	トウゴロウイワシ
アオオデコ	アオブタイ	オキザワラ	カマスサワラ	コビーカサゴ	
アオムロ	クサヤモロ	オゴ	ヒメダイ	サクラダイ	ハナフエダイ
アカダイ	センネンダイ	オジイサン	ヒメジ	ササヨ	テンヂクイサキ イスズミ
アカエイ	アカエイ	オジロ	ギンユゴイ	サヨリ	サヨリ類
アマダイ		オデコ	ベラ類	サトウバ	ソラスズメダイ
アカハナ	ユカタハタ	オビシメ	"	サメクサ	ウケグチ コバンアジ
アカハラ	クマササハナムロ	オナガ	ハマダイ	サワラ	カマスサクラ
アカバ	アカハタ	カツオフグ	センニンフグ	シマダイ	ロクセンスズメダイ
アカメ	モンツキ	カチヨウ	タキベラ	シナムロ	タカサゴ
アカメダイ	キントキダイ	カツボレ	クロヒラアジ	シモナクチ	ハマフエフキ
アカブダイ	ヒブダイ	カノコ		ショナクチ	ハマフエフキ
アカヤシ	ハタンボ	カプトダイ		シラウオ	コスヂイシモチ
アゴナシ	ツバメコノシロ	カマツカ	エソ類	シロダイ	ギンダイ
イシオコゼ	オニオコゼ	カメアジ	シマアジ	シロダボ	
インダツコ	コスヂイシモチ	カリキヌ	ニザダイ類	セグロダイ	
イス	アゾキハタ	カンナギ	マツダイ	セミホウボウ	

慣用語	和名	慣用語	和名	慣用語	和名
イソボラ	フウライボラ	カワハギ	メガネハギ	ソネトウ	ハタ類
イソマス	アオチビキ	キス	エソ類	タカベ	ウメイロモドキ
イソモロコ	ハタ類	ギチ		タチミダイ	フエフキダイ
イトヨリ		ギンメ	コスヂイシモチ	タバコイレ	チョウチョウウオ
ウツボ	ウツボ類	クチビダイ	フエフキダイ	タンゴヨ	スジフエダイ
ウマヅラ	カワハギ類	クマノミ	スズキペラ	タンゴヨウ	〃
ウミダボ	エソ類	クロダイ		チイキ	オオヒメ
ウミヘビ		クロダボ	ドンコ	チキリ	アカマツカサ
エイゾウ	アオペラ	クロブダイ	ブダイ類	チギ	バラハタ
エイロウ	アオペラ	コケザワラ	オニカマス	チャウナギ	ウツボ類
エサトリ	チョウチョウウオ	コケライワシ	オガサワラトウゴ	ドウヌケダイ	
〃	ロクセンス スズメダイ	コツペラ	ハタンボ	トヨカサゴ	
ネコクワズ	アオペラ	コモンカサゴ		トラギス	
ハイトビ	アヤトビウオ	コモンダイ		トビハゼ	
ハナオコゼ	ミノカサゴ類	ヒメハギ	カワハギ類	トンビエイ	
バラフグ	ハリセンボン	ヒレナガ		メダマ	ソコギリダイ
ハチチョウササヨ	イスズミ類	ヒラメ	モンダルマガレイ	メンチギ	イサゴハタ
ハリフグ	イシガキフグ	フカサメ類		ヤガ	タ
ハロー	ホウキハタ	ブリ	カンパチ	モロコ	ホウセキハタ
ヒメ	オオヒメ	ベタ	テンヂクイサギ	モンツキ	ウケグチ コバンアジ
		ホンアジ	メアジ	ヨツパリ	アイゴ類
		ボータ	ウメイロ	レンコダイ	キダイ

4) 漁業別、魚種別漁獲量

返還後開始された漁業種類別、魚種別漁獲量の変化を図3、表3～5に示したとおりである。43年では諸種の事情で漁業に専心できなかったが、44年には稍軌道にのり沿岸漁業から沖合（火山列島）へ、トビウオ流刺網漁業に出漁している。45年もほぼ同様であるが、漁獲量の増減を単に見て比較するにはその背景となる社会事情が不安定であるのでまだ正常な状態とはいいがたいが一応比較してみた。

漁業種別には智島、父島、母島近海で操業する底魚一本釣、曳縄、棒受網が主で前2者は周年、後者は秋季に操業する。又春季に流刺網、冬季に延縄が操業される。各年別に見ると次のとおりである。

- (i) 昭和43年の漁獲量、10～12月の3ヶ月間に64.7トンの水揚げした。主要漁業が底魚一本釣であるので底魚類の水揚が最も多く24トン(37%)、次に曳縄でサワラ、マグロ類が21トン(32%)、棒受網でクサヤモロ、その他が20トン(31%)である。魚種別に見ると22種+その他で、この内カマスサワラが19トン、クサヤモロが18トン、ハマダイが7.7トン、その他となる。
- (ii) 昭和44年の水揚量、1～12月に209トンが水揚された。底魚一本釣で82.1トン(39%)、曳縄で58.5トン(28%)、棒受網で14.5トン(7%)、刺網で54.6トン(26%)、延縄で0.3トン(0.1%)、となる。魚種別に見ると回游性のトビウオ類が54.6トンで最も多く、カマスサワラが49.5トン、底魚類のハマダイが48.7トン、クサヤモロが13.9トンとなる。その他ホウキハタ4.5トン、キダイ、マツダイが各3.6トン、オオヒメ3.7トン、ヒメダイ3.0トンその他の底魚4.7トンである。回游性のキハダマグロ8.6トン、その他である。
- (iii) 昭和45年の水揚量、1～12月に209.7トンと前年より僅かに少ない。底魚一本釣で102.1トンとその前年より20.1トン増加した。曳縄では33.4トンと前年より減、延縄でマグロ類が7.1トンと前年より著しく増加、流刺網でトビウオ21.2トンと前年より大巾に減少した。魚種別に見ると底魚類のハマダイが41.4トンと前年より少なく、ヒメダイは14.8トンと前年より増加、ホウキハタが12トン、キダイが6.8トン、カンパチ5トン、ハナフエダイ3.9トン、オオヒメ3.5トンである。回游魚ではキハダが減少し2.4トン、ピンチョウ、カマスサワラが29.3トンといずれも減少した。一方クサヤモロは45.9トンと前年より著しく増加したが逆にトビウオ類は21.2トンと減少した。

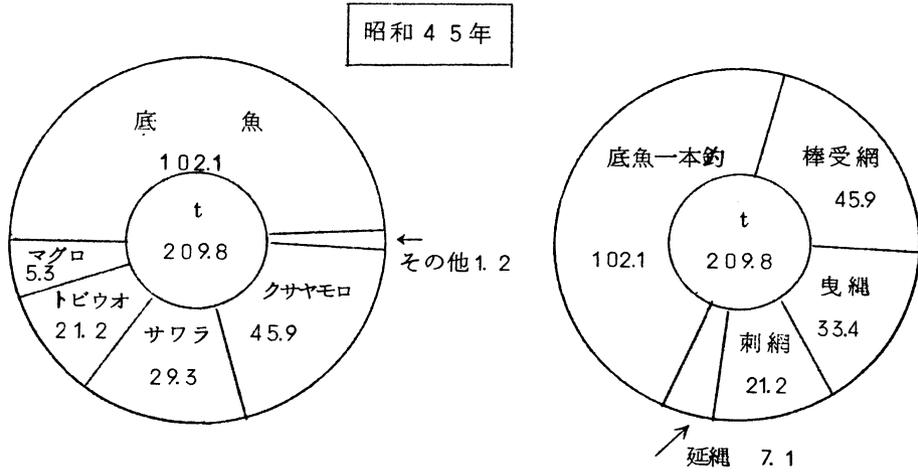
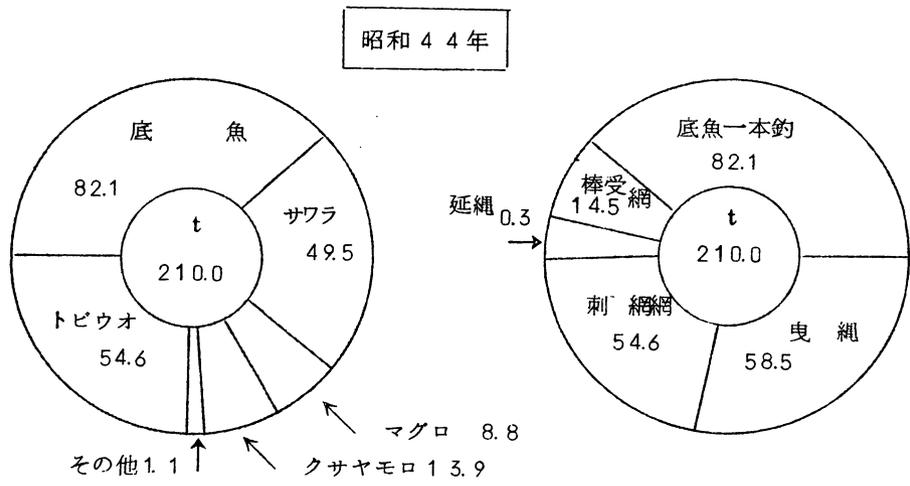
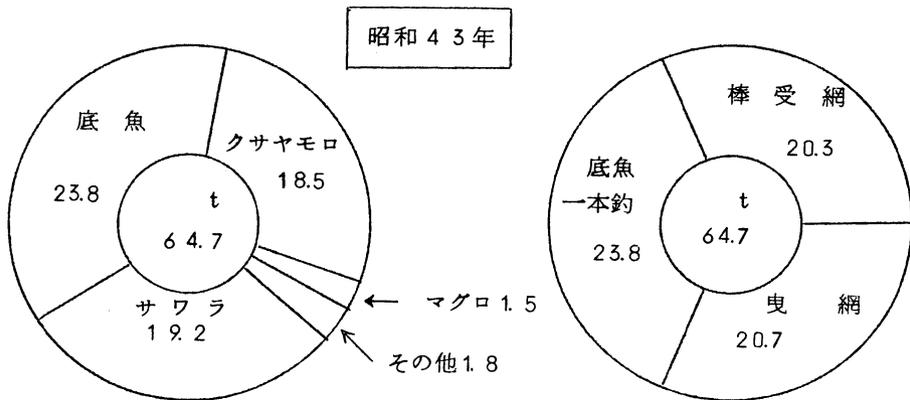


図3. 魚種別・漁業別漁獲量

表 2-1 前編

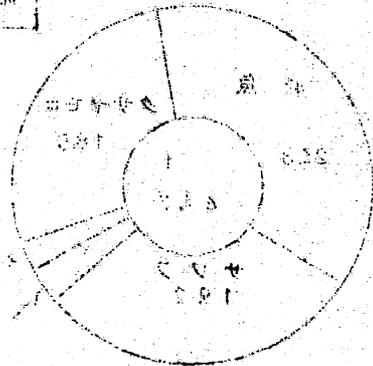
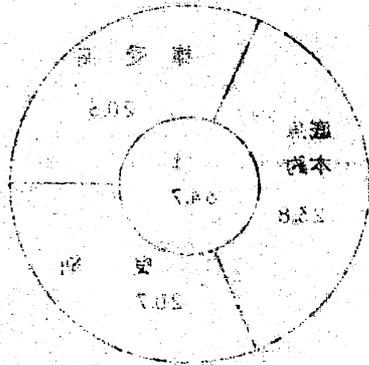


表 2-2 前編

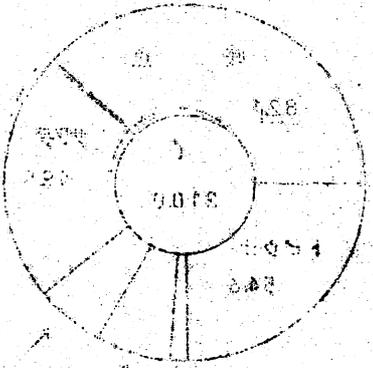
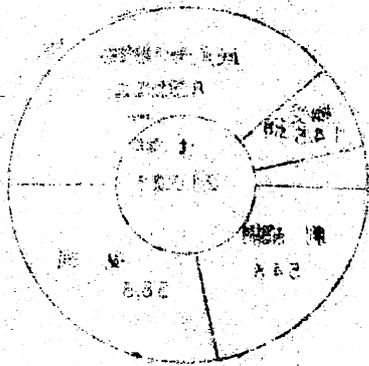
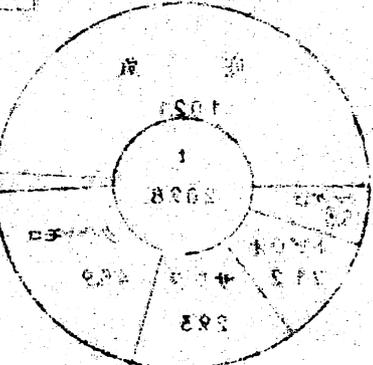
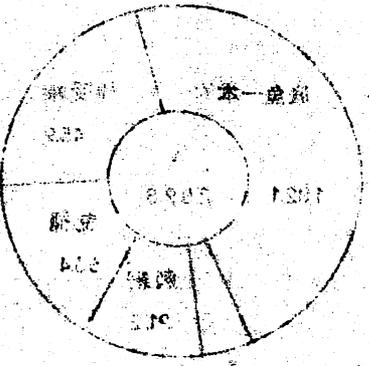


表 2-3 前編



編者 藤野野矢

小笠原諸島産魚類目録

ネコザメ科 Heterodontidae

1. ネコザメ *Heterodontus japonicus* (DNMÉRIL)
2. シマネコザメ *H. Zebra* (GRAY)

トラザメ科 Scyliorhinidae

3. ナヌカザメ *Cephaloscyllium umbratile* TORDAN et FOWLER

シュモクザメ科 Sphyrnidae

4. アカシュモクザメ *Sphyrna rewini*

ネヅミザメ科 Lamnidae

5. ネヅミザメ *Lamna ditropis* HUBBS et FOLLETT

オナガザメ科 Alopiidae

6. オナガザメ *Alopias pelagicus* NAKAMURA

ドチザメ科 Triakidae

7. ホシザメ *Mustelus manazo* BLEEKER
8. ドチザメ *Triakis scyllia* MÜLLER et HENLE
9. ネムリブカ *Triaenobon obesus*

メジロザメ科 Carcharhinidae

10. ヒラガシラ *Scoliodon walbeehmi* (BLEEKER)
11. メジロザメ *Carcharhinus gangeticus* (MÜLLER et HENLE)
12. ヨシキリザメ *Glyphis glaucus* (LINNÉ)

ノコギリザメ科 Pristiophoridae

13. ノコギリザメ *Pristiophorus japonicus* GÜNTHER

アカエイ科 Dasyatidae

14. ウシエイ *Dasyatis ushieii* JORDAN et HUBBS
15. ヤツコエイ *D. kuhlii* (MÜLLER et HENLE)
16. アカエイ *D. akajei* (M. & H)
17. マダラウシエイ (マダラエイ) *D. maculatus* MIYOSI
18. ツバクロエイ *Gymnura japonica* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

トビエイ科 Myliobatidae

19. トビエイ *Holorhinus tobijeii* (BLEEKER)
20. マダラトビエイ *Aetobatus narinari* (EUPHRASEN)

イトマキエイ科 Mobulidae

21. イトマキエイ *Mobula japonica* (MÜLLER et HENLE)

ギンザメ科 Chimaeridae

22. ギンザメ *Chimaera phantasma* JORDAN et SNYDER

ミンナシシ科 Clupeidae

23. ミナミイワシ *Sardinella jussieu* (LACÉPÉDE)
24. オグロイワシ *S. melamura* (CUVIER)
25. ミズシ *Harengula ovalis* (BENNETT)

カタクチイワシ科 Engraulidae

26. オオイワジ (シマヒシコ) *Thrissa maeropa* (KISHINOUE)
27. オオタレクチ *T. dussumieri* (CUVIER et VALENCIENNES)

- ヒメ科 Aulopodidae
28. ヒメ *Hime japonica* (GÜNTHER)
- エソ科 Synodontidae
29. *Saurida graci* QUOY & GAIMARD
- ゴンズイ科 Plotosidae
30. ゴンズイ *Plotosus anguillaris* (LACÉPÈDE)
- ウナギ科 Anguillidae
31. ウナギ *Anguilla japonica* (TEMMINCK et
SCHLEGEL)
32. オオウナギ(カニクイ) *A. marmorata* QUOY et GAIMARD
- アナゴ科 Congridae
33. マアナゴ *Astroconger myriaster* (BREVORT)
- ウミヘビ科 Ophichthidae
34. シマウミヘビ *Chlovestes colubrinus* (BODDAERT)
35. モンガラドオン *Microdonophis terabo* JORDAN et
RICHARDSON
- ウツボ科 Muraenidae
36. ハナヒゲウツボ *Rhinomuraena tambonensis* Barbour
37. トラウツボ *Muraena pardalis* TEMMINCK et
SCHLEGEL
38. ユリウツボ *Gymnothorax leucastigma* JORDAN et
RICHARDSON
39. ハナビラウツボ *G. meleagris* (SHAW et NODDER)
40. サビウツボ *G. thyrsoideus* (RICHARDSON)
41. ウツボ *G. Kidako* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
42. ゼブラウツボ *Echidma Zebra* (SHAW)

- タッブミンノ-科 Poeciliidae
43. カダヤシ *Gambusia affinis* (BAIRD et GIRARD)
- ダ ツ 科 Belonidae
44. テンジクダツ *Tylosurus melanotus* (BLEEKER)
- サ ン マ 科 Scombresocidae
45. サンマ *Cololabis saira* (BREVOORT)
- サ ヨ リ 科 Hemiramphidae
46. トオザヨリ *Euleptorhamphus longirastris* (CUVIER)
47. ナンヨウサヨリ *Hemiramphus marginatus* (FORSKAL)
- ト ビ ウ オ 科 Exocoetidae
48. アヤトビウオ *Cypselurus poecilopterus* (CUVIER et VALENCIENNES)
49. マトウトビウオ *C. bahiensis* (RANZANI)
50. オオメナツトビ *C. antoncichi*
- ヘ ラ ヤ ガ ラ 科 Aulostomidae
51. ヘラヤガラ *Aulostomus chinensis* (LINNÉ)
- ヤ ガ ラ 科 Fistulariidae
52. アオヤガラ *Fistularia villosa* KLUNZINGER
53. アカヤガラ *F. petimba* LACÉPÉDE
- ヨ ウ ジ ウ オ 科 Syngnathidae
54. ヒバシヨウジ *Doryrhamphus melanopleura* (BLEEKER)
55. ヨウジウオ *Syngnathus schlegeli* KAUP

キンメダイ科

Berycidae

56. キンメダイ *Beryx splendens* LOWE

イトウダイ科

Holocentridae

57. アカマツカサ *Myripristis murdjan* (FORSKÅL)
58. ウロコマツカサ *M. melanostictus* BLEEKER
59. ウケグチイトウダイ *Flammeo Sammara* (FORSKÅL)
60. イトウダイ *Holocentrus spinosissimus*
61. トガリエビス *H. spinifer* (FORSKÅL)
TEMMINCK et SCHLEGEL

ギンメダイ科

Polymixiidae

62. ギンメダイ *Polymixia japonica* STEINDACHNER

トウゴロウイワシ科

Atherinidae

63. オガサワラトウゴロウ *Allanetta forskali* (RÜPPELL)

ボラ科

Mugilidae

64. ボラ *Mugil cephalus* LINNÉ
65. フウライボラ *Crenimugil crenilabis* (ForskÅL)

カマス科

Sphyraenidae

66. アオカマス *Sphyraena nigripinnis* TEMMINCK et SCHLEGEL

ツバメコノシロ科

Polynemidae

67. ツバメコノシロ *Polydactylus plebejus* (BROUSSONET)

サバ科

Scombridae

68. マグロ *Thunnus thynnus* (LINNÉ)
69. ピンナガ *T. alalunga* (BONNATERRE)

- | | |
|---------------|--|
| 70. メ. バ チ | <i>Parathunnus obesus</i> (Lowe) |
| 71. キ ハ ダ | <i>Neothunnus albacora</i> (L.) |
| 72. イソマグロ | <i>Gymnosarda unicolor</i> (RÜPPELL) |
| 73. スマ(ヤイト) | <i>Euthynnus affinis yaito</i> KISHINOUE |
| 74. カ ツ オ | <i>Katsuwonus pelamis</i> (LINNÉ) |
| 75. マルソウダ | <i>Auxis tapeinosoma</i> BLEEKER |
| 76. マサバ(ヒラサバ) | <i>Scomber japonicus</i> HOUTTUYN |
| 77. カマスサワラ | <i>Acanthocybium solandri</i> (CUVIER et VALENCIENNES) |

マカシキ科

Histiophoridae

- | | |
|-----------------|---|
| 78. マカジキ | <i>Makaira mitsukurii</i> (JORDAN et SNYDER) |
| 79. クロカジキ(クロカワ) | <i>Makaira mazara</i> (J. & S.) |
| 80. バショウカジキ | <i>Histiophorus orientalis</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL) |
| 81. メカジキ | <i>Xiphias gladius</i> LINNÉ |

シイラ科

Coryphaenidae

- | | |
|---------|----------------------------------|
| 82. シイラ | <i>Coryphaena hippurus</i> LINNÉ |
|---------|----------------------------------|

シマガツオ科

Lepidotidae

- | | |
|----------------|------------------------------------|
| 83. ヒレジロマンザイウオ | <i>Taractes longipinnis</i> (LOWE) |
|----------------|------------------------------------|

アジ科

Carangidae

- | | |
|------------------|---|
| 84. オアカムロ | <i>Decapterus russellii</i> (RÜPPELL) |
| 85. クサヤモロ | <i>D. macrosoma</i> BLEEKER |
| 86. メアジ | <i>Trachurops torvus</i> (JENYNS) |
| 87. クボアジ | <i>Atropus atropus</i> (BLOCH et SCHNEIDER) |
| 88. カイワリ | <i>Caranx equula</i> TEMMINCK et SCHLEGEL |
| 89. クロヒラアジ(カツボレ) | <i>C. ishikawai</i> WAKIYA |
| 90. ロウニンアジ | <i>C. ignobilis</i> (FORESKÅL) |
| 91. | <i>C. jarra</i> CUVIER et VALENCIENNES |

92. シマアジ *C. delicatissimus* (DÖDERLEIN)
 93. オキアジ *C. helvolus* (FORSTER)
 94. イトヒキアジ *Alectis ciliaris* (BLOCH)
 95. コバンアジ *Trachinotus baillonii* (LACÉPÉDE)
 96. ウケグチコバンアジ *T. jordani* WAKIYA
 97. カンパチ *Seriola purpurascens* TEMMINCK et SCHLEGEL
 98. ツムブリ *Elgatis bipinnulata* (QUOY et GAIMARD)

イボダイ科 Stromateidae

99. メダイ *Ocyrius japonicus* (DÖDERLEIN)

エボシダイ科 Nomeidae

100. エボシダイ *Nomeus albula* (MENSCHEN)

ハタンホ科 Pempheridae

101. ハタンボ *Pempheris japonicus* DÖDERLEIN

ヒメジ科 Mullidae

102. リュウキュウヒメジ *Pseudupeneus pleurostigma* (BENNETT)
 103. インドヒメジ *P. barberinoides* (BLEEKER)
 104. オキナヒメジ *P. spilurus* (B.)
 105. オジサン *P. trifasciatus* (LACÉPÉDE)
 106. ウミヒゴイ *P. chrysopleuron* (TEMMINCK et SCHLEGEL)

テンジクダイ科 Apogonidae

107. テンジクダイ *Apogon lineatus* (T. & S.)
 108. コスジシモチ *A. endekataenia* BLEEKER
 109. オオズジシモチ *A. doederleini* JORDAN et SNYDER
 110. ヒトスジシモチ *A. fraenatus* VALENCIENNES
 111. ネンブツダイ *A. semilineatus* TEMMINCK et SCHLEGEL

- | | | |
|------|----------------|---|
| | <u>マツダイ科</u> | Lobotidae |
| 112. | マツダイ | <i>Lobotes surinamensis</i> (BLOCH) |
| | <u>キントキダイ科</u> | Priacanthidae |
| 113. | キントキダイ | <i>Priacanthus macracanthus</i> CUVIER |
| 114. | チカメキントキ | <i>P. boops</i> (SCHNEIDER) |
| | <u>ユゴイ科</u> | Kuhliidae |
| 115. | トゲナグユゴイ | <i>Kuhlia boninensis</i> (FOWLER) |
| 116. | ギンユゴイ | <i>K. taeniura</i> (CUVIER et VALENCIENNES) |
| | <u>カワビシヤ科</u> | Histiopteridae |
| 117. | テングダイ | <i>Evistias acutirostris</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL) |
| | <u>スズキ科</u> | Serranidae |
| 118. | ルリハタ | <i>Aulacocephalus temmincki</i> BLEEKER |
| 119. | トゲハナスズキ | <i>Pikea japonica</i> STEINDACHNER et DÖDERLEIN |
| 120. | バラハタ | <i>Variola louti</i> (FÖRSKÅL) |
| 121. | アカハナ | <i>Cephalopholis aurantius</i> (VALENCIENNES) |
| 122. | イサゴハタ (アオホシハタ) | <i>C. miniatus</i> (FORSKÅL) |
| 123. | ユカタハタ | <i>C. formosanus</i> TANAKA |
| 124. | ゴイシハタ | <i>C. hemistictus</i> RÜPPEL |
| 125. | ニジハタ | <i>C. urodelus</i> (SCHNEIDER) |
| 126. | アオノメハタ | <i>C. argus</i> SCHNEIDER |
| 127. | ツチホゼリ | <i>Epinephelus hoedtii</i> (BLEEKER) |
| 128. | シロブチハタ | <i>E. maculatus</i> (BLOCH) |
| 129. | | <i>E. kohleri</i> |
| 130. | ホウセキハタ | <i>E. chlorostigma</i> (CUVIER et VALENCIENNES) |
| 131. | モヨウハタ | <i>E. megachir</i> (RICHARDSON) |
| 132. | カンモンハタ | <i>E. merra</i> BLOCH |

- | | | |
|------|-------------|---|
| 133. | インガキハタ | <i>E. hexagonatus</i> (BLOCH et SCHNEIDER) |
| 134. | ヒトミハタ | <i>E. tauvina</i> (FORSKÅL) |
| 135. | ヒレグロハタ | <i>E. carallicola</i> (CUVIER et VALENCIENNES) |
| 136. | ノミノクチ | <i>E. fario</i> (THUNBERG) |
| 137. | マダラハタ | <i>E. fuscoquittatus</i> (FORSKÅL) |
| 138. | キジハタ | <i>E. akaara</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL) |
| 139. | アオハタ | <i>E. awoara</i> (T. & S.) |
| 140. | アオハタモドキ | <i>E. diacanthus</i> (C. & V.) |
| 141. | シモフリハタ | <i>E. rhycholepis</i> (BLEEKER) |
| 142. | ハクテンハタ | <i>E. caeruleopunctatus</i> (BLOCH) |
| 143. | ナミハタ | <i>E. summana</i> (FORSKÅL) |
| 144. | イヤゴハタ (アオナ) | <i>E. poecilonotus</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL) |
| 145. | オオスジハタ | <i>E. latifasciatus</i> (T. & S.) |
| 146. | ホオキハタ | <i>E. morrhua cometae</i> TANAKA |
| 147. | マハタ | <i>E. septemfasciatus</i> (THUNBERG) |
| 148. | アカハタ | <i>E. fasciatus</i> (FORSKÅL) |
| 149. | セダカアカハタ | <i>E. albopunctulatus</i> BOULENGER |
| 150. | クエ | <i>E. moara</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL) |
| 151. | サラサハタ | <i>Cromileptes altivelis</i> (CUVIER et VALENCIENNES) |
| 152. | ヌノサラシ | <i>Grammistes sexlineatus sexlineatus</i> (THUNBERG) |
| 153. | リュウキュウハナダイ | <i>Pseudanthias taira</i> SCHMIDT |
| 154. | コンゴウハナダイ | <i>Franzia cheirospilos</i> (BLEEKER) |

タナバタウオ科 Plesiopidae

- | | | |
|------|--------|-------------------------------|
| 155. | タナバタウオ | <i>Plesiops melas</i> BLEEKER |
|------|--------|-------------------------------|

メジナ科 Girellidae

- | | | |
|------|--------|-------------------------------------|
| 156. | メジナ | <i>Girella punctata</i> GRAY |
| 157. | クロメジナ | <i>G. melanichthys</i> (RICHARDSON) |
| 158. | オキナメジナ | <i>G. mekina</i> JORDAN et STARKS |

- イ ス ズ ミ 科 Kyphosidae
159. イスズミ(ゴクラクメジナ) *Kyphosus lembus*(CUVIER et VALENCIENNES)
160. テンジクイサギ *K. cinerascens* (FORSKÅL)
- ク ロ サ ギ 科 Gerridae
161. ダイミョウサギ *Gerres japonicus* BLEEKER
- タ イ 科 Sparidae
162. キヂヌ(キビレ) *Mylio latus* (HOUTTUYN)
163. ヨコシマクロダイ *Monotaxis grandoculis*(FORSKÅL)
- フ エ フ キ ダ イ 科 Lethrinidae
164. フェフキダイ *Lethrinus haematopterus* TEMMINCK et SCHLEGEL
165. ハマフェフキ *L. choerhynchus* (SCHNEIDER)
166. アミフェフキ *L. reticulatus*(CUVIER et VALENCIENNES)
- フ エ ダ イ 科 Lutjanidae
167. フェダイ *Lutjanus rivulatus*(CUVIER et VALENCIENNES)
168. イッテンフェダイ *L. monostigma* (C. & V.)
169. ヨスジフェダイ *L. kasmira* (FORSKÅL)
170. センネンタイ *L. sabae*(CUVIER et VALENCIENNES)
171. ウメイロ(ヒワダイ) *Paracaesio xanthurus* (BLEEKER)
172. アオダイ *P. caeruleas* (KATAYAMA)
173. アオチビキ *Aprion virescens*(CUVIER et VALENCIENNES)
174. ハナフェダイ *Pristipomoides microdon*(STEINDACHNER)
175. ヒメダイ *P. filamentosus*(CUVIER et VALENCIENNES)
176. オオヒメ *P. filamentosus roseus*(CASTELNAU)
177. ハマダイ *Etelis carbunculus*(CUVIER et VALENCIENNES)
178. シマチビキ *Tropidinius zonatus*(VALENCIENNES)
179. ハチジョウアカムツ *Etelinus marshi* (JENKINS)

メイチダイ科 *Pentapodidae*

180. キダイ *Taius tumifrons*(TEMMINCK et SCHLEGEL)
181. ノコギリダイ *Gnathodentex taurolineatus*(LACÉPÉDE)
タカサゴ科 *Caesionidae*
182. クマササハナハ *Caesio tilie* CUVIER et VALENCIENNES
183. ユメウメイロ *C. erythrogaster*(CUVIER et VALENCIENNES)
184. ウメイロモドキ *C. xanthonotus* BLEEKER
185. タカサゴ *C. chrysozonus* CUVIER et VALENCIENNES
186. ササムロ *C. caerulaureus* LACÉPÉDE

イサキ科 *Pomadasyidae*

187. コショウダイ *Plectorhynchus cinctus*(TEMMINCK et SCHLEGEL)
188. アジアコショウダイ *P. orientalis*(BLOCH)
189. ムスジコショウダイ *P. diagrammus*(LINNÉ)
190. コロダイ *P. pictus*(THUNBERG)
191. タマガシラ *Scolopsis inermis*(TEMMINCK et SCHLEGEL)

シマイサキ科 *Theraponidae*

192. ヒメコトヒキ *Therapon theraps* CUVIER et VALENCIENNES
193. ヨスジシマイサキ *Pelates quadrilineatus*(BLOCH)

ゴンベイ科 *Cirrhitidae*

194. ミナミゴンベイ *Cirrhitichthys aprinus*(CUVIER et VALENCIENNES)
195. セナスチゴンベイ *Cirrhitidae* sp
196. ホシゴンベイ *Paracirrhitites forsteri*(BLOCH et SCHNEIDER)

タカノハダイ科 *Aplodactylidae*

197. タカノハダイ *Goniistius zonatus*(CUVIER et VALENCIENNES)
198. エウダチタカノハ *G. quadricornis* GÜNTHER

199. ミギマキ *G. zebra* (DÖDERLEIN)

イソギンボ科 Blenniidae

200. テンクロスジキンボ *Aspidontus maroubrae* (OGILBY)
201. クロスジキンボ *A. strialus* (DAY)
202. ニジギンボ *Dasson trossulus* (JORDAN et SNYDER)
203. タネギンボ *Istiblennius tanegashimae* (JORDAN et STARKS)
204. カエルウオ *Harenosimae* (JORDAN et SNYDER)
205. アミメタテガミカエルウオ *Cirripectus reticulatus* FOWLER

カクレウオ科 Carapidae

206. カクレウオ *Jordanicus Sagamianus* TANAKA

イタチウオ科 Brotuliidae

207. イタチウオ *Brotula multibarbata* (T. & S.)

カウアナゴ科 Eleotridae

208. ドンコ *Mogurnda obscura* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
209. コパンハゼ *Gobiodon quinquestrigatus* (C. & V.)

クモハゼ科 Gobidae

210. ダルマハゼ *Paragobius fuscus* (RÜPPELL)
211. クモハゼ *Bathygobius fuscus* (ROPPELL)
212. ボウズハゼ *Sicyopterus japonicus* (TANAKA)
213. ゴクラクハゼ *Rhinogobius giurinus* (ROTTER)
214. アシシロハゼ *Aboma lacticeps* (HILGENDORF)
215. ニシキハゼ *Pterogobius virgo* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
216. ドロメ *Chasmichthys gulosus* (GUICHENOT)
217. サビハゼ *Sagamia genionema* (HILGENDORF)

カワスズメ科

Cichlidae

218. カワスズメ *Tilapia mossambica* PETERS

スズメダイ科

Pomacentridae

219. クマノミ *Amphiprion xanthurus* CUVIER et VALENCIENNES
220. ハマクマノミ *A. frenatus* BREVOORT
221. アマミスズメダイ *C. isharai* (SCHMIDT)
222. フタオビスズメダイ *Chromis bitaeniatus* FOWLER et BEAN
223. デバスズメ *C. caeruleus* (CUVIER et VALENCIENNES)
224. ネットアイスズメダイ *C. atripes* FOWLER et BEAN
225. ショクスズメダイ *C. dimidiatus* KLUNZINGER
226. ミスジリュウキュウスズメ *Tetradrachnum aruanum* (LINNÉ)
227. ヒトスジリュウキュウスズメ *T. marginatum* (RÜPPELL)
228. フタスジリュウキュウスズメ *T. reticulatum* (RÜPPELL)
229. ミツボシクロスズメ *T. trimaculatum* (RÜPPELL)
230. モンナシオジロスズメダイ *Pomacentrus flavicaula* WHITLEY
231. ルリホシスズメダイ *Abudefduf lacrymatus* (QUOY et GAIMARD)
232. イシガキスズメダイ *A. dickii* (LIÉNARD)
233. シマスズメダイ *A. sordidus* (FORSKÅL)
234. オヤビツチャ *A. vaigiensis* (QUOY et GAIMARD)
235. ロクセンスズメダイ *A. sexfasciatus* (LACÉPÉDE)
236. ハクセンスズメダイ (異名 = スジブチスズメダイ) *Chrysiptera zonata* (CUVIER et VALENCIENNES)
237. ルリスズメ *C. assimilis* (GÜNTHER)
238. コバルトスズメ *C. hollisi* FOWLER
239. キンランスズメ *C. biocellata* (QUOY et GAIMARD)
240. キビレスズメ *Pseudochromis xanthochir* BLEEKER

ベ ラ 科

Labridae

- | | | |
|------|----------|--|
| 241. | イ ラ | <i>Choerodon azurio</i> (JORDAN et SNYDER) |
| 242. | タキベラ | <i>Bodianus perditio</i> (QUOY et GAIMARD) |
| 243. | キツネベラ | <i>B. bilunulatus</i> (LACÉPÉDE) |
| 244. | ヒレグロベラ | <i>B. hirsutus</i> (LACÉPÉDE) |
| 245. | コブダイ | <i>Semicossyphus reticulatus</i> (CUVIER
et VALENCIENNES) |
| 246. | ススキベラ | <i>Amampses diadematus</i> RÜPPEL |
| 247. | ブチススキベラ | <i>A. caeruleo-punctatus</i> RÜPPEL |
| 248. | カマスベラ | <i>Cheilio inermis</i> (FORSKÅL) |
| 249. | クギベラ | <i>Gomphosus varius</i> LACÉPÉDE |
| 250. | ヤシヤベラ | <i>Cheilinus trilobatus</i> LACÉPÉDE |
| 251. | セナスジベラ | <i>Thalassoma hardwicke</i> (BENNETT) |
| 252. | オトメベラ | <i>T. lunare</i> (LINNÉ) |
| 253. | ヤマブキベラ | <i>T. lutescens</i> LAY et BENNETT |
| 254. | リュウグウベラ | <i>T. fuscum</i> (LACEPEDE) |
| 255. | ニシキベラ | <i>T. cupido</i> (TEMMINK et SCHLEGEL) |
| 256. | シマタレクチベラ | <i>Hemigymnus fasciatus</i> (BLOCH) |
| 257. | タレクチベラ | <i>H. melapterus</i> (BLOCH) |
| 258. | ササノハベラ | <i>Pseudolabrus japonicus</i> (HOULTUYN) |
| 259. | ホンソメワケベラ | <i>Labroides dimidiatus</i> (CUVIER et
VALENCIENNES) |
| 260. | ソメワケベラ | <i>L. bicolor</i> FOWLER et BEAN |
| 261. | カミナリベラ | <i>Stethojulis kalosoma</i> (BLEEKER) |
| 262. | ミスジベラ | <i>Pseudojulis trifasciatus</i> M. WEBER |
| 263. | トカラベラ | <i>Halichoeres centiquadrus</i> (LACÉPÉDE) |
| 264. | キュウセン | <i>H. poecilopterus</i> (TEMMINCK et S
SCHLEGEL) |
| 265. | カンムリベラ | <i>Coris aygula</i> LACÉPÉDE |
| 266. | ムスメベラ | <i>Julis musume</i> JORDAN et SNYDER |
| 267. | ツユベラ | <i>J. gaimardi</i> (QUOY et GAIMARD) |

	<u>ブダイ科</u>	Scardae
268. ミゾレブダイ		<i>Leptoscarus vaigiensis</i> (QUOY et GAIMARD)
269. ブダイ		<i>L. japonicus</i> (CUVIER et VALENCIENNES)
270. ヒブダイ		<i>Scarus ghobban</i> FORSKÅL
271. アオブダイ		<i>Callyodon ovifrons</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL)
272. イチモンジブダイ		<i>C. forsteni</i> (BLEEKER)
273. コブブダイ		<i>C. oedema</i> SNYDER
274. ツキワダイ(オウムダイ)		<i>C. lunula</i> SNYDER

	<u>ツバメウオ科</u>	Platacidae
275. ナンヨウツバメウオ		<i>Platax orbicularis</i> (Forskål)

	<u>カゴカキダイ科</u>	Scorpididae
276. カゴカキダイ		<i>Microcanthus strigatus</i> (CUVIER et VALENCIENNES)

	<u>チョウチョウウオ科</u>	Chaetodontibae
277. キンチャクダイ		<i>Chaetodontoplus septentrionalis</i> (TEMMINCK et SCHLEGEL)
278. タテジマキンチャクダイ (ハマキンチャクダイ)		<i>Pomacanthus imperator</i> (BLOCH)
279. ワヌケヤッコ		<i>P. annularis</i> (BLOCH)
280. サザナミヤッコ(ゲッテンヤッコ)		<i>P. semicirculatus</i> (CUVIER et VALENCIENNES)
281. シテンヤッコ		<i>Holacanthus trimaculatus</i> LACEPEDE
282. ニシキヤッコ		<i>Pygoplites diacanthus</i> (BODDAERT)
283. アブラヤッコ		<i>Centropyge tibicen</i> (CUVIER et VALENCIENNES)
284. ナメラヤッコ		<i>C. vrolicki</i> (BLEEKER)
285. ヘルルドヤッコ		<i>C. heraldi</i> WOODS et SCHULTZ
286. コガネヤッコ		<i>C. flavissimus</i> (CUVIER et VALENCIENNES)
287. レンテンヤッコ		<i>C. fisheri</i> (SNYDER)
288. ソメワケヤッコ		<i>C. bicolor</i> (BLOCH)
289. フエヤッコダイ		<i>Forcipiger longirostris</i> (BROUSSONET)
290.		<i>C. triangulum</i> CUVIER et VALENCIENNES

291. ヤリカタギ *Chaetodon strigangulus* GMELIN
292. スミツキトノサマダイ *C. plebeius* CUVIER et VALENCIENNES
293. フウライチョウチョウウオ *C. vagabundus* LINNE
294. カガミチョウチョウウオ *C. argentatus* S. & R.
295. ハクテンカタギ *C. reticulatus* CUVIER et VALENCIENNES
296. ゲンロクダイ *C. modestus* TEMMINCK et SCHLEGES
297. ペニオチョウチョウウオ *C. mertensii* CUVIER
298. ハナグロチョウチョウ *C. ornatissimus* CUVIER et VALENCIENNES
299. チョウチョウウオ *C. collaris* BLOCH
300. アケボノチョウチョウウオ *C. melanotus* BLOCH et SCHNEIDER
301. シテンチョウチョウウオ *C. quadrimaculatus* GRAY
302. チョウハン *C. lunula* (LACÉPÉDE)
303. スダレチョウチョウウオ *C. falcula* BLOCH
304. ニセフウライチョウチョウ *C. lineolatus* CUVIER et VALENCIENNES
305. シラコダイ *C. nippon* STEINDACHNER et DÖDERLEIN
306. ユウゼン *C. daedalma* JORDAN et FOWLER
307. セグロチョウチョウウオ *C. ehippium* CUVIER et VALENCIENNES
308. ゴマチョウチョウウオ *C. citrinellus* CUVIER et VALENCIENNES
309. イッテンチョウチョウウオ *C. unimaculatus* BLOCH
310. ウミツキチョウチョウウオ *C. bennetti* CUVIER et VALENCIENNES
311. ミスジチョウチョウウオ *C. trifasciatus* MONG PARK
312. トノサマダイ *C. specium* CUVIER et VALENCIENNES
313. ミカドチョウチョウウオ *C. triangulum* CUVIER et VALENCIENNES
314. ハタタテダイ *Heniochus acuminatus* (LINNÉ)
315. ミナミハタタテダイ *H. permutatus* CUVIER et VALENCIENNES
316. オニハタタテダイ *H. monoceros* CUVIER et VALENCIENNES

ツノダシ科 Zanclidae

317. ツノダシ *Zanclus cornutus* (LINNÉ)

ニザダイ科 Acanthuridae

318. メガネハギ *Acanthurus glaucopareius* CUVIER

- | | | |
|------|----------|---|
| 319. | シマハギ | <i>A. triostegus</i> (LINNÉ) |
| 320. | ニジハギ | <i>A. lineatus</i> (LINNÉ) |
| 321. | ヒラニザ | <i>A. mata</i> CUVIER et VALENCIENNES |
| 322. | モンツキハギ | <i>A. olivaceus</i> BLOCH et SCHNEIDER |
| 323. | カンランハギ | <i>A. bariene</i> LESSON |
| 324. | クロハギ | <i>A. matoides</i> CUVIER et VALENCIENNES |
| 325. | | <i>A. leucopareius</i> (Jenkins) |
| 326. | レモンハギ | <i>A. chrysosoma</i> BLEEKER |
| 327. | ヒレナガハギ | <i>Zebrasoma veliferum</i> (BLOCH) |
| 328. | キイロハギ | <i>Z. flavescens</i> (BENNETT) |
| 329. | ナンヨウハギ | <i>Paracanthurus hepatus</i> (LINNÉ) |
| 330. | サザナミハギ | <i>Otenochaetus strigosus</i> (BENNETT) |
| 331. | テングハギモドキ | <i>Callicanthus hexacanthus</i> (BLEEKER) |
| 332. | ミヤコテング | <i>C. lituratus</i> (BLOCH et SCHNEIDER) |
| 333. | テングハギ | <i>Maso unicornis</i> (FORSKÅL) |
| 334. | ニザダイ | <i>Prionurus microlepidotus</i> LACÉPÉDE |

アイゴ科

Siganidae

- | | | |
|------|--------|--|
| 335. | ヒフキアイゴ | <i>Siganus vulpinus</i> (SCHLEGEL et MÜLLER) |
| 336. | アイゴ | <i>Siganus fuscescens</i> (HOUTTUYN) |
| 337. | ブチアイゴ | <i>S. chrysopilos</i> (BLEEKER) |

モンガラカワバキ科

Balistidae

- | | | |
|------|----------|---|
| 338. | モンガラカワバキ | <i>Balistes conspicillum</i> BLOCH et SCHNEIDER |
| 339. | メガネハギ | <i>B. capistratus</i> SHAW |
| 340. | ムスメハギ | <i>B. bursa</i> LACEPEDE |
| 341. | キヘリモンガラ | <i>B. flavimarginatus</i> RÜPPELL |
| 342. | ツマグロモンガラ | <i>B. nigromarginatus</i> (TANAKA) |
| 343. | アカモンガラ | <i>Odonus erythron</i> (GÜNTHER) |
| 344. | クマドリ | <i>Balistapus undulatus</i> (MUNGO PARK) |
| 345. | ムラサメモンガラ | <i>B. aculeatus</i> (LINNÉ) |
| 346. | タスキモンガラ | <i>B. rectangulus</i> (BLOCH et SCHNEIDER) |

347. サメハダモンガラ *Canthidermis maculatus* (BLOCH)
348. ナメモンガラ *Xanthichthys lineopunctatus* (HOLLARD)
- カワハギ科 Aluteridae
349. カワハギ *Stephanolepis cirrhifer*
(TEMMINCK et SCHLEGEL)
350. ノコギリハギ *Paraluteres prionurus* BLEEKER
351. ソウシハギ *Aluterus scriptus* (FORSTER)
- ウチワフグ科 Triodonidae
352. ウチワフグ *Triodon tursarius* REINWARDT
- イトマキフグ科 Aracanidae
353. イトマキフグ *Kentrocopros aculeatus* (HOUTTUYN)
- ハコフグ科 Ostraciontidae
354. ハコフグ *Ostracion tuberculatus* LINNÉ
355. クロハコフグ *O. sebae* BLEEKER
356. コンゴウフグ *Lactoria cornutus* (LINNÉ)
357. ウミスズメ *L. diaphanus* (BLOCH et SCHNEIDER)
- フグ科 Tetraodontidae
358. シマキンチャクフグ *Canthigaster valentini* (BLEEKER)
359. キタマクラ *C. rivulatus* (TEMMINCK et SCHLEGEL)
360. ヨリトフグ *Liosaccus cutaneous* (GÜNTHER)
361. クマサカフグ *Lagocephalus lagocephalus oceanicus*
JORDAN et EVERMANN
362. センニンフグ(ギンフグ) *L. scleratus* (GMELIN)
363. シマフグ *Fugu xanthopterus* (TEMMINCK et
SCHLEGEL)
364. オキナワフグ *Chelonodon patoca* (HAMILTON-BUCHANAN)
365. ミゾレフグ *Arothron meleagris* (LACÉPÉDE)
366. ヨゴレフグ(コクテンフグ) *Tetraodon nigropunctatus* (BLOCH &
SCHNEIDER)

367. モヨウフグ *A. stellatus* (BLOCH et SCHNEIDER)

ハリセンボン科 Diodontidae

368. ハリセンボン *Diodon holacanthus* LINNÉ

369. イシガキフグ *Chilomycterus affinis* GÜNTHER

マンボウ科 Molidae

370. マンボウ *Mola mola* (LINNÉ)

フサカサゴ科 Scorpaenidae

371. ミノカサゴ *Pterois volitans* (LINNÉ)

372. ハナミノカサゴ(オオミノカサゴ) *P. volitans* (LINNÉ)

373. ネットイミノカサゴ *P. antennata* (BLOCH)

374. キリンミノ *Brachirus zebra* (QUOY et GAIMARD)

オニオコゼ科 Synanceiidae

375. オニオコゼ *Inimicus japonicus* (CUVIER et VALENCIENNES)

376. オニダルマオコゼ *Synanceia verrucosa* BLOCH et SCHNEIDER

セミホウボウ科 Cephalacanthidae

377. セミホウボウ *Dactyloptena orientalis* (CUVIER et VALENCHENNES)

ヒラメ科 Bothidae

378. モンダルマガレイ *Bothus mancus* (BROUSSONET)

イザリウオ科 Antennariidae

379. ハナオコゼ *Pterophryne histrio* (LINNÉ)

380. クロハナオコゼ *P. ranina* (TILESIVS)

381. クロイザリウオ *Antennarius nox* JORDAN

382. ダンゴオコゼ科 Curacanthidae
 382. ダンゴオコゼ Caracanthus maculatus (GRAY)

アカグツ科 Oncocephalidae
 383. アカグツ Halieutaea stellata (VAHL)

底魚、磯魚一本釣漁業調査

榊内 智、今井 丈夫、佐藤 正彦
(大島分場) (技術管理部) (大島分場)

1. はしがき

小笠原群島周辺海域の漁業資源を把握する調査の一環として、父島列島周辺沖合海域、ならびに沿岸域において、釣獲試験を行ない、漁場、魚種、漁獲魚について若干の知見を得たので報告する。

本調査にあたって協力いただいた、小笠原支庁水産係長三河平治技師、同指導船興洋浅沼隆船長他乗組員一同、ならびに胃内容物の貝類について同定を願った大島分場西村和久技師に深謝する。

2. 調査方法と結果

1) 第一次調査

(1) 調査方法

昭和44年7月7日「興出漁場」で延4回操業した。各項目は次のとおりであるが、同時に興洋に設置されている一本釣用電動捲揚機の性能テストもあわせておこなった。

月 日 昭和44年7月7日 12時15分～15時20分

回 数 4回

漁 場 1～2回目、南島SW/S11' 水深150m周辺

3～4回目 南島SW1/4S10.5' 水深200m 周辺

表面水温 28°C

漁 具 底魚一本釣漁具3組(図1)

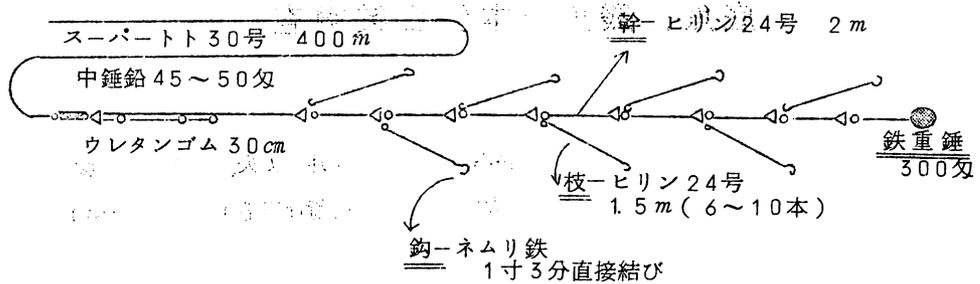


図1 底魚漁具

餌料 冷凍スルメイカ

2) 第二次調査

調査方法

1. 底魚類

年月日 昭和44年10月3、8、17日、3日間

漁場 父島列島弟島、兄島東側島棚200m等深線上、4地点。弟島、西側島棚上、2地点。父島、南側島棚上、4地点(図2)。

漁具 底魚一本釣漁具

餌料 クサヤモロ、メアジ

ロ、磯魚類

年月日 昭和44年10月15、16、17、22日、4日間

漁場 父島列島兄島西側、弟島西側、南島2本岩周辺(図2)。

漁具 アカハタ釣具

餌料 クサヤモロ、メアジ

3) 調査結果

底魚類操業地点ごとの魚種、漁獲尾数、表面水温、水深は表2に示すとおりで、漁獲魚は7種19尾であった。重要魚種はオオヒメ、キダイ、ハマダイ、カンパチ、ホウセキハタの5種15尾、非重要魚種はヒメ、ヨリトフブの2種4尾であった。

重要魚種の釣獲場所は、既成漁場である父島南沖合の通称“ウサギの耳出し”に限られ、他の調査海域では父島西沖合でキダイ2尾の釣獲をみたのみである。

漁獲水深は130~190m、主として170~190mであった。

第1回目では、投縄するとすぐ魚信があり、そのまま約20分間流してから揚縄した。魚信では各縄4～5本の捕食が感じられたが揚縄してみるとそれぞれ2～3尾のみで、他は釣鉤が延びてはズレていた。これは魚体が大きく、釣鉤に掛った後、お互いに引張り合っ
て釣鉤を延したためはずれたものと推定され現在伊豆七島ではこのような現象は見られず、
いかに魚体が大きいかが伺えた。

釣獲された魚はハマダイ4尾、キジバタ2尾、レンコダイ1尾で、魚信および釣鉤の延
びた点からこの他にハマダイ8尾が捕食していたと推定される。この間潮の流れはほとん
どなく「山手」から見て僅かにENEが認められる程度であった。

第2回目は第1回揚縄後直ちに投縄を行ないハマダイ2尾、キジバタ2尾、レンコダイ
3尾が釣獲される。

第3回目は、1～2回目の漁場西側、水深200mの場所で調査を行なった。投縄後す
ぐに魚信があったので揚縄したが、この回は釣鉤の延びたのが2本で、釣獲された魚はレ
ンコダイ7尾、サクラダイ1尾であった。

第4回目は投縄したが潮流(ENE流)が速くなり、縄成りが悪く漁獲は皆無であった。

以上の結果によりハマダイ6尾、キジバタ4尾、レンコダイ11尾、サクラダイ11尾、
あわせて22尾を漁獲した。これらの漁獲物測定結果は表1のとうりである。

表1. 漁獲魚測定結果

魚種	体重	性別	消化管内容物	生殖巣	備考
ハマダイ	8 kg	♀	カンクラゲ1個、不明魚(4cm) 1尾 ヒカリボヤ8個	完熟	胃反転
"	4.0	♂	小型イカ(胴長3cm) 1尾	—	"
キジバタ	1.5	♀	空	未熟	"
レンコダイ	1.0	♂	甲殻類(シヤコ)	—	—
ハナフェダイ	0.8	♀	ヒカリボヤ4個、不明消化物少量	未熟	—

磯魚類、漁獲魚は12種146尾であった。魚種、尾数はアカハタ62尾(43%)、シロダイ33尾(23%)、アミフェフキ26尾(18%)の3種で全体の83%を占め、他はメガネハギ、オジサン、バラハタ等で9種25尾であった。場所的には南島北2本岩周辺が79尾、弟島「北の鼻西」が27尾と良好で、他の測点では1測点当たり5尾内外であった。

魚種別の魚種割合は、兄島西沿岸域ではシロダイが多く、漁獲魚の約60%を占め、アカハタ、アミフェフキが共に15%内外であった。弟島西側ではアカハタが80%を占め、また南島北二本岩周辺ではアカハタが37%、アミフェフキ25%、シロダイ18%で以上3種で全体の80%を占めた。

魚体測定、底魚、磯魚類の叉長、体重、生殖巣、熟度、消化管内容物の結果を表2に、磯魚類の叉長、体重組成を図3に示した。

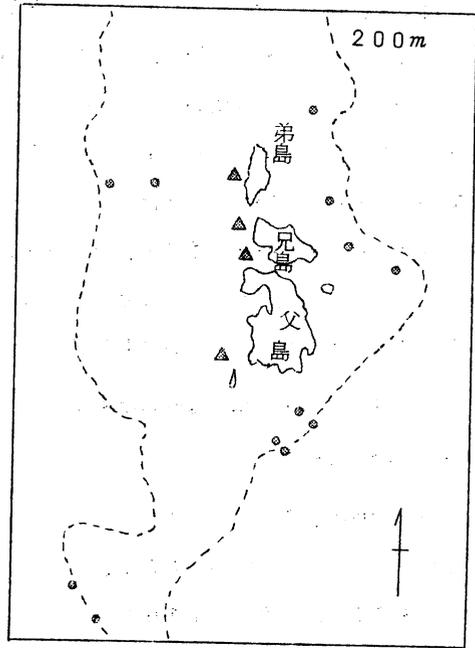
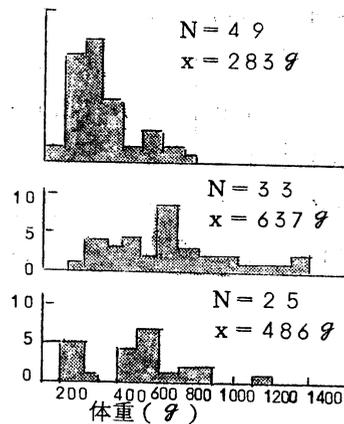
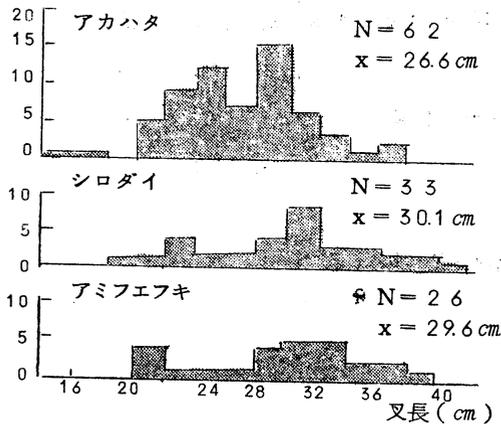


図2 父島列島調査地点
● 底魚漁場
▲ 磯魚



磯魚叉長、体重組成

生殖巣重量、卵径から産卵期と思われる魚種は底魚類でオオヒメ、ヒメ、ハマダイ、磯魚類ではアミフエフキでその他の魚種では明らかでない。

消化管内容物から見た食性は、底魚類ではオオヒメは大型プランクトン、(サルバ)が主餌料で、ハマダイはイカ類、エビ類、魚類である。

なおハマダイがせっ餌しているイカ類には2型あって、甲羅長範囲、 $1.1 \sim 2.0 \text{ mm}$ 、巾 $1.1 \sim 1.6 \text{ mm}$ 、眼球径 $0.6 \sim 2.4 \text{ mm}$ 、平均 1.48 mm が多く他に甲羅長約 3.0 mm の種が若干混じていた(図3)

磯魚では食性に2型あって、魚食魚であるアカハタと、底生性小動物を捕食するシロダイ、その他の磯魚である。シロダイその他の磯魚類の消化管内容物中の貝類の定性、定量結果は表3のとおりである。

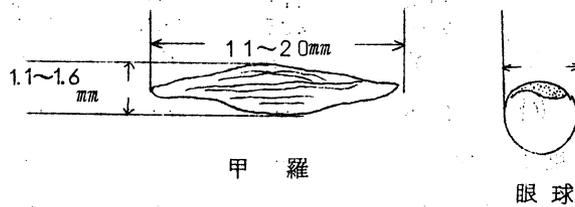


図4 イカの形態

表2. 漁獲調査概要

年月日		44. 10. 4						
St NO		1	2	3	4	5	6	計
位置	Lat (N)	27-13	27-09	27-07	27-06	26-59.5	26-59.5	
	Long (E)	142-15	142-15.5	142-16	142-18	142-12	142-12	
場所						ウサギの耳出	ウサギの耳出	
調査海域		弟島北より列島東側を200m線に沿ひ父島南沖まで調査						
水深 (m)		180	190	130	170	165	190	
時間		8.50 9.05	9.15 9.25	9.45 9.55	10.15 10.25	11.30 12.15	12.50 13.30	
天候		○	○	○	○	○	○	
水温 (C)		28.8	—	—	—	28.2	28.4	
風向 / 風力		NE / 1	—	—	—	—	—	
漁具		底魚一本釣	"	"	"	"	"	
獲魚	シロダイ							
	アカハタ							
	アミフエフキ							
	キダイ						3	3
	ヒメ	1		1				2
	ハマダイ						2	2
	ヒメジ							
	オオヒメ					4	1	5
	ヨリトフグ	1						1
	ホウセキハタ					1		1
カンパチ					1		1	
アオチヒキ								
バラハタ								
計		2	0	1	0	6	6	15

4 4. 1 0. 8			4 4. 1 0. 1 5				
1	2	計	1	2	3	4	5
27-10.0	27-10.0		27-06.2	27-06.8	27-06.5	27-06.5	27-06.5
142-08.5	142-06		142-11.1	142-12.0	142-11.9	142-11.9	142-11.8
			三ヶ月山裏	滝の浦	吐出の鼻	No3の 50m中	No4の 50m中
父島西側沖合調査			兄島西側沿岸域調査				
155	170		45	25	12	35	45
9.30 9.40	9.50 9.55		8.50	~	9.35	9.40	~10.30
○	○		◎	◎	◎	◎	◎
28.6	28.6		26.5	26.4	26.5	26.5	26.5
S/4~5	S/4~5		NE/5		SW/3		
底魚一本釣	"		アカベ釣	"	"	"	"
				6	3	2	1
			1		2		3
	2	2					
1		1			1		
				1			
			1				
1	2	3	2	7		2	4

生 殖 腺		消化管内容物	
量 (g) ♀	卵径 (mm)		熟 度
3.25~1.47	0.932~0.295	0.8 mm以上完熟	サルバ、(端脚、エビメ魚、イカ)
5.8~ 1.7	0.141~0.105	未 熟	魚類、エビ
2.8~ 2.7	1.06 ~0.58	0.5 mm以上完熟	—
1.06	0.464	未 熟	イカ(甲長1-2 cm)魚類
—	—	—	—
5.8	0.105	未 熟	サルバ
—	—	—	—
—	—	—	魚類
0.1~ 0.6	0.07~0.09	未 熟	貝、ウニ、カニ、エビ
0.2~1.93	0.14~0.52	0.5 mm以上完熟	カニ、エビ、ウニ、貝
8.0	0.243	中 熟	カニ、貝、ゴカイ、ウニ
—	—	—	エビ、カニ、ルヤコク
—	—	—	甲殻
0.3	0.09	未 熟	貝、ヤドカリ
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—
—	—	—	—

表3. 胃内容貝類出現数

和名	学名	個体数
ヒメコザラ	<i>Patelloida pygmaea</i>	26
ムシボタル	<i>Olivella fulgurata</i>	8
サラサバイ	<i>Phasianella modesta</i>	6
フルヤガイ	<i>Stomatia phymotis</i>	6
ホウシュノタマ	<i>Natica lurida</i>	5
シラタマ	<i>Trivirostra oryza</i>	4
ツララガイ	<i>Acteocina (Tornatia) decorata</i>	4
ヒメアワビ	<i>Gena varia</i>	3
アシヤガマ	<i>Stomatia (Stomatolina) rubra</i>	3
ハナエガイ	<i>Barbatia (Ustularca) stearnsi</i>	2
スソカケガイ	<i>Clypidina (Montfortula) pulchra</i>	1
アシヤガイ	<i>Stomatella lyrata</i>	1
リュウキュウヒバリ	<i>Madiolus agripetus</i>	1
マルオミナエシ	<i>Lioconcha castrensis</i>	1
ナデシコガイ	<i>Chlamys irregularis</i>	1
ウキダカラ	<i>Palmadusta asellus</i>	1
ユキバネ SP.	<i>Limatula</i> SP.	1
クルマガイ SP.	<i>Heliacus</i> SP.	1
ノミフデ	<i>Thalassosiphonia ogasawarana</i>	1
オガサケラリンツボ	<i>Alvania</i>	1
	<i>Mitra</i> SP.	1
ソメワケリイレボラ	<i>Trigonaphera bicolor</i>	1
	<i>Lienardia</i> SP.	1
ヒノデガイ	<i>Tellinella</i> SP.	1

3) 考 察

調査回数が少ないため、この結果から資源量の予測はむずかしいが、小笠原漁協所属船の漁獲物等から検討すると深海漁場価値として次のことがいえる。

(1) 魚種と資源量

ハマダイ、キジバタ、キダイ、が主な魚種で、この他オオヒメ、ハナフエダイ、ハチヂョウアカムツ等が生息している。

ハマダイは漁場にもよるが一般に魚体が大きく、まだかなりの資源があると思われる。

キジバタ、レンコダイは至る所で漁獲されておりレンコダイは水深150～200m、底質砂礫の場所にもっとも多く、相当の資源があると思われる。

(2) 漁 場

戦前本漁業を行っていたのは父島のみで、母島ではほとんど操業されていないため父島周辺の好漁場は漁民も熟知しているが、母島周辺は未開発で今後、聳島―父島―母島列島を結ぶ水深200m等深線を中心とする岩礁地帯を探索すればかなりの新漁場が発見されると推定される。

(3) 漁具漁法

「興洋」で実施した結果、釣鉤が延びたためはずれた魚がかなりあり、小笠原漁協で購入した釣鉤は折損が非常に多い、したがって伊豆七島使用の釣鉤より丈夫な品を使用する必要がある。なおキジバタ、キダイを対象に操業する場合は底延縄漁法を採用すれば効果的な操業ができるのではないだろうか。

(4) 「興洋」設置の底釣用捲揚機について

電動ドラム捲取式の揚縄機(石川島播磨重工設計)1機、従来の手揚げと比較試験を行なった。比較したのは水深150mの場所を2回、200mの場所2回、計4回で釣縄はそれぞれ水深の40%増程度の長さであった。揚縄開始後テグスの場所までの所要時間は3～4分で機械、手揚げとも途中でトラブルのない限りほとんど時間的に差はみられなかった。ただし労力の省力は大きく、操業回数を増すごとに機械の効果はあがることが実証された。しかし次の欠点を改善する必要がある。

イ 動力を発電機から直接とっているため、揚縄時には推進器が使えず、しかもエンジンの回転レバーによってあげねばならず、その間常にブリッジの操舵者と連絡をとらなくてはならない。

ロ 縄擦りールの溝の切り方が悪いため揚縄中、縄がはずれ易い。

ハ 繩擦りールが誘導式になっていないためりールに捲取るとき片捲きとなる。

ニ 魚が掛り引張った時のスリップ装置がない。

ホ 揚繩中りールに捲取った繩のタルミを押さえる装置がバネのスプリングを利用しているがこの装置が完全に作動しない。現在設置してある3機共バネがはずれてしまっている。

4) 要 約

- (1) 底魚資源は開発の余地があると推定され、特に聳島、母島列島を探索する必要がある。
- (2) 漁具は、伊豆諸島使用のものより丈夫な釣鉤を用いる必要がある。
- (3) 底釣用捲揚機は効率良く、省力化に役に立つが「興洋」設置のものでは改良点がある。
- (4) 底魚は既成漁場においてのみ漁獲がみられ、魚種はオオヒメ、キダイ、ハマダイ等7種であった。
- (5) 磯魚は弟島北西沿岸域、南島北二本岩周辺で豊富な漁獲がみられた。魚種はアカハタ、シロダイ、アミフエフキの3種が多く、全漁獲魚の8.0%以上を占めた。
- (6) 生殖腺で完熟卵を有していた種は10月上、中旬でオオヒメ、ヒメ、アミフエフキ、まったくの未熟種はキダイ、シロダイ、タキベラ、ホウセキハタであった。
- (7) 消化管内容は底魚のオオヒメがサルパ、キダイが魚類、ハマダイが小型イカであった。磯魚はシロダイ、アミフエフキ、メガネハギ、ヒメジ、オジサン、タキベラ等おおむね行動力の小さい底棲の貝、カニ、ウニであるが、アカハタは魚類であった。
- (8) 底魚(ハマダイ、オオヒメ)胃内容に出現した小型イカは、おおむね1~2cmのペカ船型甲羅を有する種であるが、他に1種、若干大型な種も出現した。
- (9) 磯魚に捕食されていた貝類で同定出来たものは24種、定量的にはヒメゴザラ、ムシボタル、サラサバイ、ホウシュウイタマ、フルヤガイが多く出現した。

底魚延縄漁業の一事例

倉 田 洋 二
(技 術 管 理 部)

は し が き

底魚延縄漁業は昭和の始め徳島県の漁業者によって、小笠原近海のキダイ(レンゴダイ)を対象に試験出漁したという。当時の徳島船団は試験の結果がおもわしくなかったためか、企業化されなかった。これと前後して小笠原島庁では沿岸漁業の荒廃を底魚漁業によって振興しようとして、昭和9年に試験操業をしたところ漁獲成績は良かったが、漁具の損傷が多いため中止した。

今回、C.G.KKの所属船が濠州近海のマダイ延縄漁業操業の帰路、小笠原近海で底魚延縄漁業を行った。その資料が入手できたので参考に紹介する。

試験操業結果

- 1) 操業年月日 昭和45年12月29日~46年1月8日
- 2) 操業方法 母船(703t)搭載の漁艇1.58t・9PS)6隻。1回の漁具数は25鉢、1隻の操業回数は6回、延縄の長さは1回に約31kmとなる。
- 3) 漁具

延縄	1鉢	210m	
幹縄	クレモナ	20 ^S	120本
瀬縄	"	20	180"
技糸	"	20	20"
釣針	マダイ用	18号	90本

- 4) 操業日数 8日間
- 5) 漁場、弟島、母島近海(図1)
- 6) 漁獲量 2975Kg
- 7) 魚種別漁量

キジハタ最も多く1707Kg(1.42Kg/鉢)、キダイ526Kg(0.44Kg/鉢)、ヒメダイ270Kg(0.23Kg/鉢)、アツキハタ208Kg(0.17Kg/鉢)、その他となる。総計では2975Kg(2.49Kg/鉢)である。

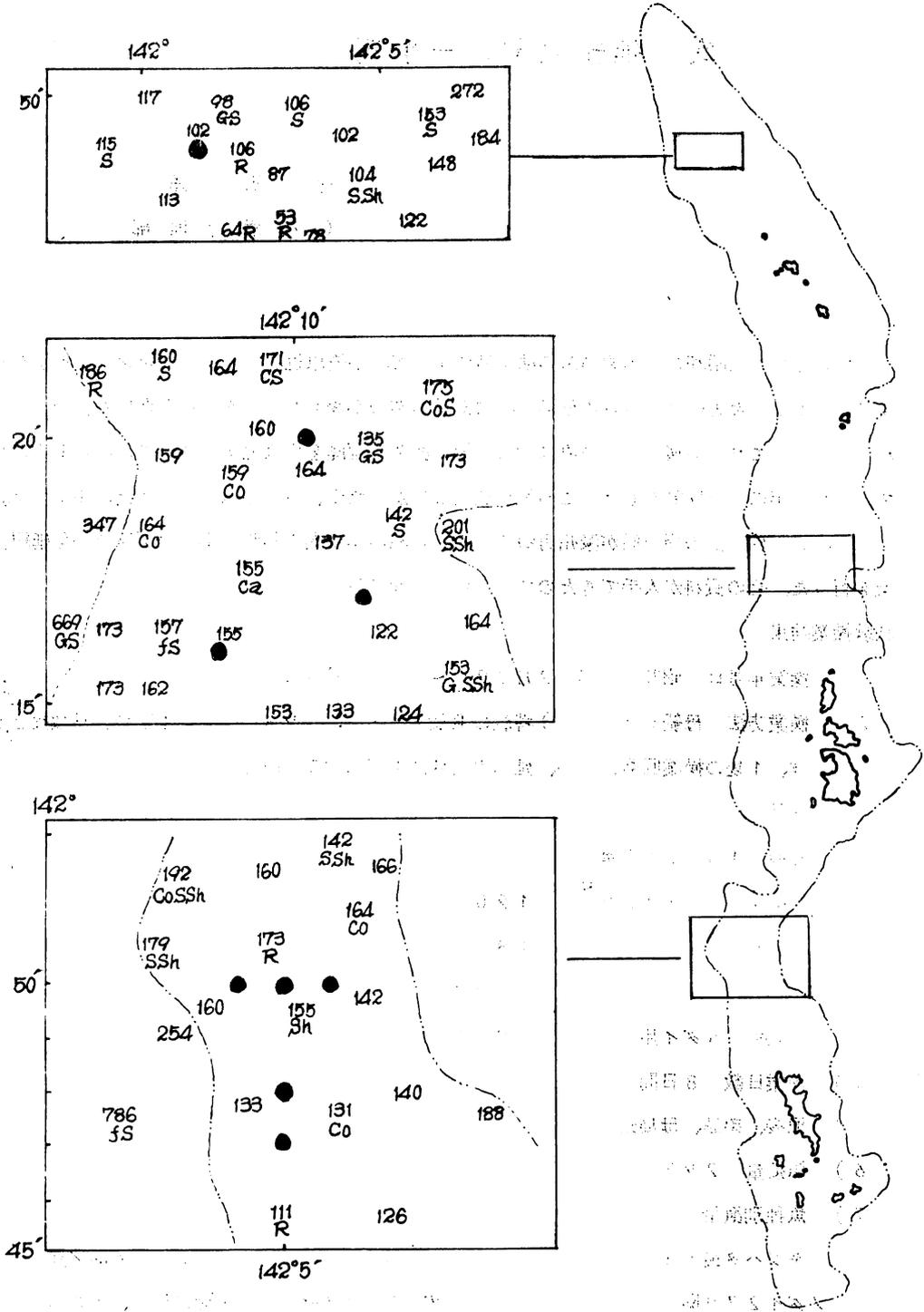


图 1. 底魚延繩漁場

8) 漁獲魚種

主要魚6種とその他5種計11種である。

ハマダイ	<i>Etelis carbunculus</i> (C. & V)
ヒメダイ	<i>Pristipomoides micjodon</i> (S)
キダイ	<i>Taius tumifrons</i> (T. & S)
ハナフエダイ	<i>Pristiponodes microdo</i> (S)
キジハタ	<i>Epinephelus hoedtii</i> (B)
サメ類	<i>Carcharhinidae</i> sp
その他	
アオダイ	<i>Paracaesio caeruleus</i> (K)
オオヒメ	<i>P. filamentosus roseus</i> (C)
マハタ	<i>Epinephelus septemfasciatus</i>
ハチヂョウアカムツ	<i>Etelinus marsho</i> (J)
キツネベラ	<i>Bodianus perditio</i> (Q. & G)

9) 金額

漁獲物は冷凍と氷結の二方法によつて運搬した。そして築地入港後、魚種別に撰別し箱結とした。氷結品は1864Kg、冷凍品は1111Kgである。

魚種毎の単価は次のとおりで、価格は総計573,000円である。

ハマダイ	500~700円	ヒメダイ	400~500円
キダイ	350~400円	アオダイ	500円
ハナフエ ダイ	100円	オオヒメ	350円
アヅキハタ	200円	キジハタ	200~300円

10) オーストラリアの陸棚におけるマダイ延縄漁具をそのまま導入して島棚の凸凹の激しい起伏に富む海底では漁具の海底でのテンラクが多く、投入した漁具の $\frac{1}{3}$ は揚繩できなかつたという。従つて底延縄を海底から浮かすように改良する必要があると思われる。

なお小笠原支庁が戦前実施した底魚延縄記録結果を参考に示せば次のとおりである。

小笠原支庁底魚延縄記録結果

年月日	漁場位置	漁具数	キダイ	キジハタ	その他	水温その他	水深
S. 9. 6. 8	孫島WNW6 湊	10 鉢	5 尾	1 尾	一尾	網切多し	140m
9	野羊山WNW5 湊	10	4	1	サメ5	24.0°C	150
10	タツミ崎NE	5	—	2	—	22.5	100
"	南島S2 湊	5	0	0	—	—	—
12	嫁島SW7.5 湊	(5)	0	0	0	21.7°C	165
13	媒島E3 湊	(5)	0	2	サメ1	23.0	—
14	媒島SW4 湊	10	7	0	—	22.0	—
15	野羊山WSW5 湊	(5)	9	10	—	23.0	153
"	" SSW	(5)	2	3	—	—	180
"	" S 3 湊	(5)	5	5	—	—	170

参考文献

1) 田中道知、1968：小笠原の水産、水産界1008号

2) 東京都小笠原支庁、1940：飛魚及び底魚漁場調査、小笠原島水産経営事業成績報告書、昭和8年度～10年度

漁獲試験結果

月日	操業位置	天候	風向	風力	気温	水温	水深	魚隻数	使用鉢数	製品品高(漁獲高)						合計	備考	
										ハマダイ	ヒメダイ	キダイ	ハナフエダイ	キジハダ	アズキハダ			サメ
12月30日	N 26-50 E 142-04	bc	E	1	26.0	23.0	170-200	6	150	2 c/s	3 c/s	7 c/s	1 c/s	10 c/s	c/s	6 c/s	26 c/s	ハマダイ魚体小
31日	26-47	bc	SSW	3	21.0	23.1	150-120	6	150	3	1	1		30	8	6	48	
1月1日	27-16	c	S	3	18.0	21.3	150 m	6	150	3	6			11			20	時化気味
2日	27-49	c	NE	2	17.4	21.7	100-180	6	150	132	10 Kg			204	60 Kg	3	160 Kg	漁皆無
3日	27-20	bc	E	1	19.0	22.3	100-140	6	150	24	72			36			468	根がかり多く潮早し
4日	27-17	c	SSW	4	20.5	21.4	100-140	4	80								60	繩流失多し 潮と時化模様
5日	26-50	c	SW	5	19.0	22.0												
6日	26-48	bc	NNW	4	19.0	22.5												
7日	26-50	bc	N	1	18.0	21.3	130-150	6	150	12 Kg	108			228		3	348	潮早し
8日	26-52	bc	NW	2	19.8	21.2	150-170	6	220	12 Kg	36	192		528	60 Kg	1	828	"
合計								隻 46	枚 1,200	2 c/s 12 Kg	6 c/s 204 Kg	14 c/s 582 Kg	1 c/s	51 c/s 1146 Kg	8 c/s 120 Kg	19 c/s	101 c/s 1864 Kg	

製品単位 c/s冷凍品(1 c/s = 11 Kg入)

Kg氷結品

水深 入始め水深(m) - 入終り水深(m)

府 質 岩盤(石灰岩またはサンゴ)

小笠原諸島の漁業の現況と問題点

阿 部 登
(八 丈 分 場)

1. は し が き

昭和45年10月20日～11月27日迄、漁業指導の目的で主として底魚一本釣、ムロアジ棒受網漁業の漁具漁法の指導、その他をおこなってきたが現地でも知り得た漁業の現況と問題点について述べる。

2. 底魚一本釣漁業

1) 漁 場

小笠原諸島は戦後23年間放置されていた関係上、諸島周辺の底魚漁場には未開発漁場もかなりあるものと思われる。現在利用されている漁場では父島SW沖の「巽見出し漁場」と「東島沖漁場」がその主なものである。これらの漁場ではハマダイ、ヒメダイ、レンコダイ等が漁獲されるが、沿岸部ではハタ類、サワラ、ウメイロ、イソマグロ等が釣獲されている。漁場の価値については未調査の点が多いため、その可否については明らかでないが、父島周辺漁場についてみると島の随所に砂浜が多いことから考えておそらく、周辺漁場でも底魚が生息する岩礁は少ないように思われる。また、同一漁場（巽見出し漁場）で魚体が大から極小まで幅が広い、このような傾向は八丈島近海ではあまり見られない。今後は底魚資源保護の立場から広域調査を行ない、漁場の拡大を図るとともに同一漁場での集中的な操業を避ける必要がある。

2) 漁 船

操業船の主なものは二見1号から12号（4、9号を除く）までの10隻であるが常時稼働しているものは、うち7～8隻である。これらの漁船は船型も同型で屯数は2～3屯級である。船型は船首部が低く、また舷側も低い（甲板上約20cm位）ため甲板部分が広く使用できるが、秋季から冬季の荒天時には操業はかなり危険であり、稼働日数の増加を図るためにも出来れば船首部を高くし、舷側も差板を使用し波浪の浸入を防止することが望ましい。

3) 漁具の構造

現在使用されている漁具は、幹繩、枝繩とも太目で釣針も伊豆七島の漁具に比べて大きい

もの(25号)を使用している。また魚種に応じた漁具を使用せず、同一漁具で操業しているため漁獲効率が悪いように思われる。

ヒメダイ(オゴ)を対象とする場合は幹縄2.6分(間隔1.1m)、枝縄2分(長さ1m)釣針18~20号程度でよい、またハマダイ(オナガ)を対象とする場合は、幹縄3分(間隔1.8m)、枝縄2.6分(長さ1.4m)、釣針20~23号程度でよいのではないかとと思われる。ただし釣針全部に餌付した場合には釣具を切断することもあるが、その割合は少ないので漁獲効率をよくするため、テグスも細めのものを使用する必要がある。

また釣具の切断を防止するため、幹縄の上部にウレタンゴム(径3mm、長さ30cm)を使用することによって、釣具の切断をある程度防止することができる。

4) 底釣り漁船の操船について

現用の漁船にはスパンカーがなく、舵も固定式で上下装置がないため操船上難点が多く、そのため操船に船頭が専念し非能率的である。なお夏季には無風状態の日も多くスパンカーの必要もあまりないが、風力2以上になればスパンカーを使用することによって船の間立て(風に立てる)がスムーズになり、釣縄が船下になることも防止できるし、船頭も釣獲に専念できて、能率的な操業が可能となる(二見丸級のセールは12,000~13,000円)。

5) 底魚捲揚機の使用について

最近、若年漁業者の不足から八丈島の小型漁船のほとんどが捲揚機を装備し、省力化の面で大きな効果をあげている。小笠原でも今後捲揚機を導入し、労働力の軽減をはかることが必要であろう。捲揚機を使用することによって、汐流がある程度速い場合でも操業が可能(重量800g~1kg)となり、また1日の操業回数が増加するため漁獲も上る。(捲揚機は、施設費を含め1台、30,000~35,000円)。

3. ムロ棒受網漁業

1) 漁場

現在、父島周辺、兄島瀬戸、弟島、西島の各沿岸部で、二見丸級5~6隻が操業している。漁場としては父島周辺漁場より母島漁場の方が漁獲が多い模様であるが、10月以降は荒天日が多くなり各船とも父島周辺を主に操業している。漁場は島周辺にある岩礁の縁辺部で操業され、岩礁を離れて操業することはほとんどない。資源量についてはまだ調査が不充分のため明らかでないが、八丈島に比べて濃密群は少ないようである。なお漁場付近の透明度は高く漁船、漁具が小型であることもあるが一網当りの漁獲量は30~40kg程度で、八丈島のように一網400kg程度の漁獲は見られない。

2) 網漁具

網漁具一統の総長は140~160間で、向竹約6.5間、舷側の長さ約7間(出来上り)の漁網を使用している。縮結もあり袋状になるため網の構造については最良である。網漁具はナイロン漁網6本合せの10節程度で、染色は赤褐色(カツチ色)が多く、中には濃紺色を使用している漁業者もいる。小笠原諸島近海のように透明度が高い漁場を操業する場合は濃紺色(ピース色)を使用する他、漁具の沈降速度を早めるため、網の外側にクレモナロープ(径7mm、鉛芯入ロープ)を中央部に3~4本縦に入れることも一つの方法ではないかと思われる。

3) 操業状況

棒受網は底釣り兼業しながらの手締め(手石網)で、1日20~30回操業し肉体的にも重労働である。今後は捲揚機を用いて省力化を計る必要がある。

4) クサヤモロの体長組成

漁獲魚の体長は八丈産のものに比べ小型で21~24cm程度、平均体長は22.5cm(図1)で脂肪も少なく、クサヤ原料として最適と思われる。

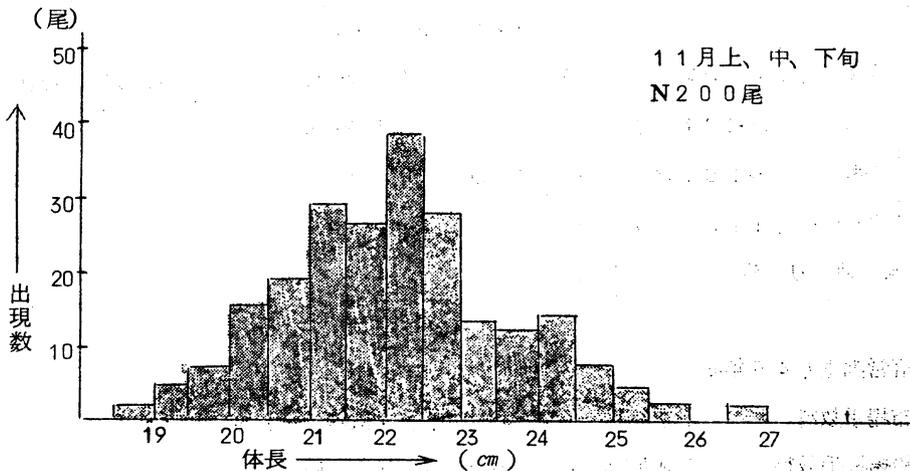


図1. 父、母島産ムロアジ体長組成

4. カツオ曳縄漁業

戦前、小笠原諸島では、カツオ一本釣が操業されており漁獲物は「カツオ節」に加工され内地に出荷されていた。現在の漁船は2~3トンの小型漁船が主体であることと、餌料不足から三宅島、八丈島で活用している餌料を余り必要としない曳縄漁法を今後普及させる必要がある

5) 燃油、氷類の販売価格

品名	単位	組合船	島内	管外船
重油	ℓ	13円	—	19~20円
氷	Kg	—	—	—
砕氷	Kg	4	8	15

6) 小笠原漁協の漁業施設

国および都の補助で44年7月に製氷施設、11月に冷蔵、冷凍機械設備が、45年3月には50ℓ給油タンクがそれぞれ完成している。製氷の規模は鉄筋コンクリート2階建、総面積は57.9㎡で製氷能力は日産5トン、貯氷能力は50トンである。冷蔵、冷凍施設は面積166.66㎡の鉄筋コンクリート平屋建で、冷蔵庫の規模は下表のとおりである。

室名	面積	最低温度	収容能力	備考
凍結室	19.25㎡	-30℃	4トン	冷媒アンモニア
冷蔵庫 1	22.00	-23	17.6トン	能力92 Kw
" 2	28.00	-5	24.0トン	
準備室	18.20	-5		

このように凍結室は小さく、全船が稼動すると1~2日間の操業で貯蔵限界となる。そのうえ加工施設は組合自営で1業者のため棒受網を専業とすると加工原料がだぶつき処理できないことになる。凍結室を開けるためには鮮魚運搬船の就航回数を増やすことと同時に加工能力の増大や冷蔵、冷凍設備の設備拡充も必要である。又漁獲物の処理場(荷さばき場)が無いため、漁獲物の水揚は炎天下でもそのまま行なわれている。せつかく漁場で鮮度保持に努めても、水揚時に鮮度を低下させている現状である。現在父島二見港に漁業基地建設のための諸工事が行なわれている関係上早急に荷さばき場を建造することは不可能であろうが、出来るだけ早急に荷さばき場の設置と、砕氷をベルトコンベアーで直接漁船に積み込みできるような施設の拡充をはかる必要がある。

父島二見港内水温定置観測

草 処 孝 一

(小笠原支庁産業課水産係)

1. 小笠原における水温定置観測の推移

小笠原における水温観測は、明治44年1月から父島二見港内の定点(図1)で開始されたが、ただ当時の観測時刻は12時で、毎月3回(11、21日)だけであったが、大正13年以降からは、毎月6回の観測となった。以後、昭和15年まで観測は続けられたが、戦時になって中断され、さらに戦後、米国の管理下に置かれたときも観測はおこなわれなかった模様である。

昭和44年6月、小笠原諸島の日本返還にさいし諸般の事情で観測の再開は遅れたが、同年7月より小笠原支庁産業課水産係が水産試験場の依頼を受けて観測を開始し、現在では1年を経過、前年観測値との比較も可能となり、小笠原水産業発展の基礎資料として活用されるようになった。

2. 昭和44年(7月)からの観測結果

- (1) 観測場所 父島二見港内中央、大村防波堤突端(図1)
- (2) 観測時間 毎日、午前9時の1回
- (3) 観測開始日時 昭和44年7月21日、午前9時より
- (4) 観測器具、棒状水温計(+3.5~-)10°C、 $\frac{1}{10}$ 目盛)、赤沼式比重計B号
- (5) 観測担当者

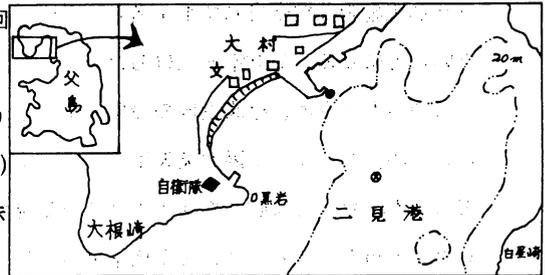


図1. 定置観測地点 ● 現在の定点 ○ 戦前の定点

昭和44年7月21日—12月	小笠原支庁産業課水産係	技師	小林 康夫
"	"	係長	三河 平治
昭和44年12月以降	"	技師	草処 孝一

2) 水温の月別変化

44年、全般に7-10月は平年水温より高く11-12月は平年水温より低かった。最高水温は9月の28.2°C、最低水温は12月の22.1°Cであった。

45年、3、11、12月を除けば、平年水温より高かった。最低は3月の19.9°C、最高は8月の27.6°Cであった。平年水温との差は6月の最高1.9°C、12月の最低1.8°Cであった。

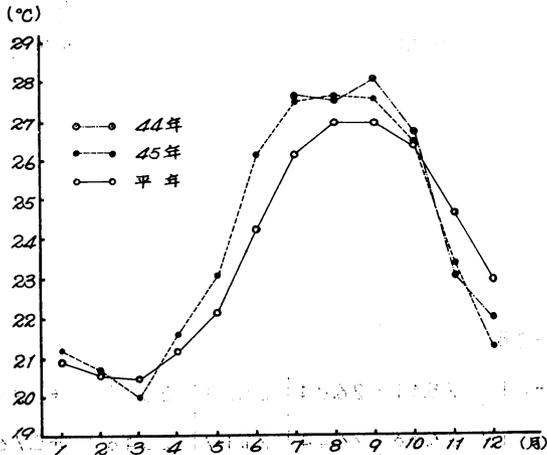


図2. 月別水温の変化

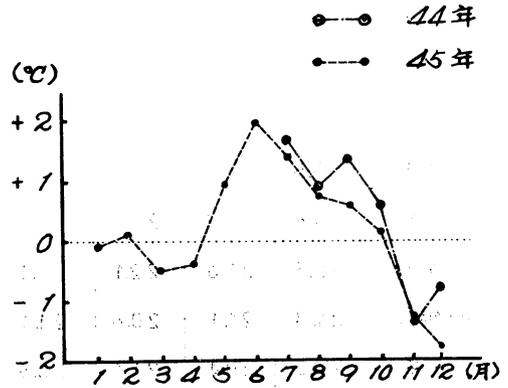
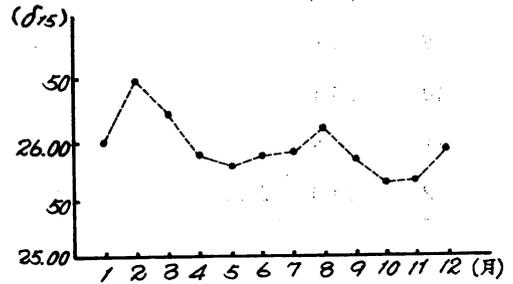
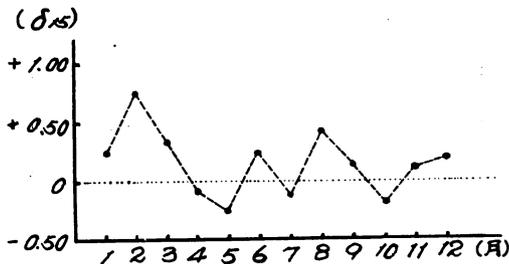


図3. 月別水温の平年水温との較差



平年比重との較差

図4. 比重の月別変化と平年比重との較差 (S. 45年)

3. 文 献

東京府小笠原支庁、小笠原島水産経営事業報告、大正7年～昭和3年度

定 置 観 測 結 果

年 月	水 温 (℃)					比 重 (615)				
	上 旬	中 旬	下 旬	月平均	平年差	上 旬	中 旬	下 旬	月平均	平年差
44年7月		27.1	28.1	27.7	+1.6					
8	27.6	27.1	27.9	27.7	+0.8					
9	27.9	28.4	28.2	28.2	+1.3					
10	28.5	26.3	25.6	26.8	+0.5					
11	24.6	23.8	23.2	23.2	-1.4					
12	22.6	21.6	22.1	22.1	-0.8					
45年1月	21.8	21.1	20.6	21.1	-0.1	25.41	26.04	26.20	25.89	+0.25
2	20.0	20.4	21.6	20.6	+0.1	26.46	26.44	21.17	26.46	+0.76
3	20.2	19.8	19.8	19.9	-0.5	26.47	26.06	26.11	26.21	+0.35
4	20.5	21.6	22.4	21.5	-0.4	25.90	26.01	25.69	25.87	-0.09
5	21.6	22.9	24.7	23.0	+0.9	25.84	25.74	25.73	25.76	-0.24
6	24.6	26.5	27.1	26.1	+1.9	25.56	25.73	26.28	25.86	+0.24
7	26.5	27.9	27.6	27.4	+1.3	25.32	26.00	26.21	25.89	-0.12
8	28.0	27.3	27.6	27.6	+0.7	26.07	26.13	26.09	26.09	+0.41
9	27.5	27.6	27.5	27.5	+0.6	25.87	25.95	25.50	25.77	+0.11
10	27.1	26.9	25.2	26.4	+0.1	25.68	26.06	25.60	25.60	-0.23
11	23.9	23.5	22.6	23.3	-1.3	25.37	25.49	26.03	25.62	+0.09
12	21.4	21.1	20.8	21.1	-1.8	25.94	25.84	25.89	25.89	+0.18

1) 観測開始年月日 昭和44年7月14日

2) 平年水温は11ヶ年平均値(大正7年～昭和3年)

小笠原諸島水産開発基礎調査報告

(II)

印刷 昭和46年3月25日

発行 昭和46年3月31日

編集 東京都水産試験場 技術管理部
電話 (600) 2873

発行 東京都水産試験場
(〒125)(03)(600)2871~3

東京都総務局総務部文書課登録
印刷物規格表 第 2 類
印刷物番号(45)2945
刊行物番号(K)(66)

印刷者 東京都同胞援護会事業局

印刷所 東京都同胞援護会事業局
電話 (251)9441(代)

中國銀行 總行 北京 宣武門外大街

(11)

電話：(800) 52222

電報掛號：(42) 5242

總行：北京 宣武門外大街
分行：上海 南京路

電話：(800) 52222
電報掛號：(42) 5242

上海 南京路
電話：(800) 52222
電報掛號：(42) 5242

北京 宣武門外大街

電話：(800) 52222
電報掛號：(42) 5242